

地震ハザードステーション J-SHIS
データ規約集

2023 年 12 月

国立研究開発法人
防災科学技術研究所

-改訂履歴-

日付	規約種別	改訂内容
2009年7月	—	初版
2009年12月	想定地震断層座標データ記述ファイル規約	<ul style="list-style-type: none"> ・断層トレース、断層面、アスペリティ面定義の明確化 ・アスペリティ番号の導入
2010年2月	距離減衰式用パラメータ記述ファイル規約	<ul style="list-style-type: none"> ・マグニチュード変換コードの適用範囲の明確化 ・西南日本に対する補正を適用する地震の明確化
	想定地震地図データ記述ファイル規約	データ記述例の修正。
2010年5月	被災人口統計データ記述ファイル規約	新たに追加。
	断層コード規約	主要活断層帯断層コードの追加、断層名の変更への対応。
	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ(震源特定:矩形)記述ファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ(震源特定:非矩形)記述ファイル規約 ・条件付超過確率地図データ記述ファイル規約 ・想定地震断層座標データ記述ファイル規約 ・想定地震地図データ記述ファイル規約 ・想定地震断層パラメータ記述ファイル規約 	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2010年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：予測地図データ記述シェープファイル規約 ・条件付超過確率地図データ記述シェープファイル規約 ・想定地震地図データ記述シェープファイル規約 	新たに追加。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震コード規約、及び地震コードが引用されている規約 	地震名を一部修正。

2010年10月	表層地盤データ記述シェープファイル規約	新たに追加。
2011年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・地震コード規約 ・断層コード規約 	地震名及び断層名の説明を一部修正。
2012年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源不特定領域離散化矩形）記述ファイル規約 ・年コードを使用している規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに追加 ・年コードにモデルに関する記述を追加
2013年1月	確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約	新たに追加。
2013年7月	確率論的地震動予測地図：断層形状データ記述シェープファイル規約	新たに追加。
2013年11月	・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化矩形）記述ファイル規約	マグニチュード毎の相対確率の記載方法を改訂。
2013年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・地震コード規約 ・断層コード規約 ・確率論的地震動予測地図：プレート間/プレート内地震比率データ記述ファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震名及び断層名を一部修正。 ・ファイル命名規約を一部改訂。 ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2014年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・深部地盤構造モデルデータ記述ファイル規約 ・表層地盤データ記述ファイル規約 ・表層地盤データ記述シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・バージョンコードを追加 ・旧データのバージョンコード V1 に関する記述を削除
2014年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データ記述ファイル規約 ・地震コード規約 ・断層コード規約 ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約 ・表層地盤データ記述ファイル規約 ・表層地盤データ記述シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・大領域に区分する方法についての記述を追加 ・地震名及び断層名を一部修正。 ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。 ・旧データのバージョンコード V2 に関する記述を削除 ・増幅率の書式を変更

2015年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・想定地震断層パラメータ記述ファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通断層パラメータの記述を追加
2016年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・断層コード規約 ・確率論的地震動予測地図：地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震 断層形状データ・地震活動評価パラメータ記述ファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：地震活動評価パラメータ記述ファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：矩形）記述シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・断層名の説明を一部修正。 ・新たに追加 ・データブロック PROC の説明を追加 ・データブロック PROC の説明を追加
2016年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2017年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約 ・断層コード規約 ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データシェープファイル規約 ・深部地盤構造モデルデータ記述シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。 ・断層コードを追加 ・新たに追加
2018年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約 ・地震コード規約 ・断層コード規約 ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データシェープファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化非矩形）記述ファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化非矩形）記述シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加 ・地震コードを追加 ・主要活断層帯断層コードを追加 ・海溝型地震連動型断層コードを追加 ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加 ・新たに追加 ・新たに追加
2019年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：活断層ハザードカーブ記述ファイル規約 ・地震グループコード規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに追加 ・新たに追加

<p>2021 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述ファイル・シェープファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データ記述ファイル規約 ・確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル・シェープファイル規約 ・地震コード規約 ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述シェープファイル規約 ・表層地盤データ記述ファイル・シェープファイル規約 ・深部地盤構造モデルデータ記述ファイル・シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに追加 ・地震コード、カタログコードを追加 ・ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加 ・地震コードを追加 ・新たに追加 ・バージョンコード V4 の記述を追加 ・バージョンコード V3.2 の記述を追加
<p>2021 年 6 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述シェープファイル規約 ・条件付超過確率地図データ記述ファイル規約 ・条件付超過確率地図データ記述シェープファイル規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件付超過確率地図データに対応するファイルのファイル命名規約を修正 ・ファイル命名規約に「南海トラフ沿いで発生する大地震」（2020 年版以降）の記述を追加
<p>2023 年 12 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・深部地盤構造モデルデータ記述ファイル規約 ・深部地盤構造モデルデータ記述シェープファイル規約 ・地震コード規約 	<ul style="list-style-type: none"> ・バージョンコード V4 の記述を追加 ・地震コードを追加

-目次-

確率論的地震動予測地図：予測地図データ記述ファイル規約	3
確率論的地震動予測地図：ハザードカーブ記述ファイル規約	6
確率論的地震動予測地図：活断層ハザードカーブ記述ファイル規約	9
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：矩形）記述ファイル規約	12
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形）記述ファイル規約	16
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述ファイル規約	20
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化矩形）記述ファイル規約	23
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源不特定領域離散化矩形）記述ファイル規約	28
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化非矩形）記述ファイル規約	32
確率論的地震動予測地図：地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震 断層形状データ・地震活動評価パラメータ記述ファイル規約	35
確率論的地震動予測地図：地震活動評価パラメータ記述ファイル規約	38
確率論的地震動予測地図：震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データ記述ファイル規約	41
確率論的地震動予測地図：地域区分形状データ記述ファイル規約	46
確率論的地震動予測地図：プレート間/プレート内地震比率データ記述ファイル規約	49
確率論的地震動予測地図：距離減衰式用パラメータ記述ファイル規約	51
確率論的地震動予測地図：太平洋プレート/フィリピン海プレート形状データ記述ファイル規約	54
確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約	56
条件付超過確率地図データ記述ファイル規約	59
想定地震地図データ記述ファイル規約	61
想定地震断層座標データ記述ファイル規約	64
想定地震断層パラメータ記述ファイル規約	69
被災人口統計データ記述ファイル規約	71
表層地盤データ記述ファイル規約	74
深部地盤構造モデルデータ記述ファイル規約	80
地震コード規約	86
断層コード規約	89
地震グループコード規約	124
確率論的地震動予測地図：予測地図データ記述シェープファイル規約	132
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：矩形）記述シェープファイル規約	134
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形）記述シェープファイル規約	136
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述シェ	

ープファイル規約	138
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化矩形）記述シェープファイル規約	140
確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化非矩形）記述シェープファイル規約	143
確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述シェープファイル規約	145
条件付超過確率地図データ記述シェープファイル規約	147
想定地震地図データ記述シェープファイル規約	148
表層地盤データ記述シェープファイル規約	149
深部地盤構造モデルデータ記述シェープファイル規約	151

確率論的地震動予測地図：予測地図データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における予測地図データを記述するファイルの規約を示すものである。予測地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

予測地図データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-MAP-[確率ケースコード]-[地震コード].csv

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-MAP-[確率ケースコード]-[地震コード]-[1次メッシュコード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 確率ケースコード

確率ケースコードの説明を表2-1に示す。

表 2-1 確率ケースコード

確率ケースコード	説明
AVR	平均ケース
MAX	最大ケース

(3) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。

(4) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410(地域メッシュコード)及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002(地域メッシュコード追補 有効1)に準ずる。

3. データ記述規約

予測地図データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成されるGSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴、及び評価基準日を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、評価基準日、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) 評価基準日

EPOCH = YYYY-MM-DD の形式で記述する。

(5) データブロック

データブロックは、250m メッシュコードに対応する予測地図データを記述するブロックである。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%10-11c	250m メッシュコード
02	T30_I45_PS	%9. 6e	30 年間で震度 5 弱以上となる確率
03	T30_I50_PS	%9. 6e	30 年間で震度 5 強以上となる確率
04	T30_I55_PS	%9. 6e	30 年間で震度 6 弱以上となる確率
05	T30_I60_PS	%9. 6e	30 年間で震度 6 強以上となる確率
06	T30_P03_SI	%3. 1f	30 年間超過確率 3%となる計測震度
07	T30_P03_BV	%9. 6e	30 年間超過確率 3%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
08	T30_P03_SV	%9. 6e	30 年間超過確率 3%となる地表最大速度 (cm/s)
09	T30_P06_SI	%3. 1f	30 年間超過確率 6%となる計測震度
10	T30_P06_BV	%9. 6e	30 年間超過確率 6%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
11	T30_P06_SV	%9. 6e	30 年間超過確率 6%となる地表最大速度 (cm/s)
12	T50_P02_SI	%3. 1f	50 年間超過確率 2%となる計測震度
13	T50_P02_BV	%9. 6e	50 年間超過確率 2%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
14	T50_P02_SV	%9. 6e	50 年間超過確率 2%となる地表最大速度 (cm/s)
15	T50_P05_SI	%3. 1f	50 年間超過確率 5%となる計測震度
16	T50_P05_BV	%9. 6e	50 年間超過確率 5%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)

17	T50_P05_SV	%9. 6e	50 年間超過確率 5%となる地表最大速度 (cm/s)
18	T50_P10_SI	%3. 1f	50 年間超過確率 10%となる計測震度
19	T50_P10_BV	%9. 6e	50 年間超過確率 10%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
20	T50_P10_SV	%9. 6e	50 年間超過確率 10%となる地表最大速度 (cm/s)
21	T50_P39_SI	%3. 1f	50 年間超過確率 39%となる計測震度
22	T50_P39_BV	%9. 6e	50 年間超過確率 39%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
23	T50_P39_SV	%9. 6e	50 年間超過確率 39%となる地表最大速度 (cm/s)

(6) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
<pre># # VER. = 1.0 # # DATE = 2009-03-15 # # UPDATED # # EPOCH = 2009-01-01 # CODE, T30_I45_PS, T30_I50_PS, T30_I55_PS, T30_I60_PS, T30_P03_SI, T30_P03_BV, T30_P03_SV, T30_P06_SI, T30_P06_BV, T30_P06_SV, T50_P02_SI, T50_P02_BV, T50_P02_SV, T50_P05_SI, T50_P05_BV, T50_P05_SV, T50_P10_SI, T50_P10_BV, T50_P10_SV, T50_P39_SI, T50_P39_BV, T50_P39_SV 5339000011N, 9. 603903e-01, 7. 863986e-01, 3. 056024e-01, 2. 364876e-02, 5. 9, 8. 958661e+01, 8. 149165e+01, 5. 8, 7. 765003e+01, 7. 063365e+01, 6. 0, 1. 034413e+02, 9. 409449e+01, 5. 9, 8. 728374e+01, 7. 939687e+01, 5. 8, 7. 467549e+01, 6. 792789e+01, 5. 4, 4. 794360e+01, 4. 361146e+01 (以下省略)</pre>

確率論的地震動予測地図：ハザードカーブ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図におけるハザードカーブを記述するファイル規約を示すものである。
ハザードカーブデータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

ハザードカーブ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-HZD-[確率ケースコード]-[経過年コード]-[3次メッシュコード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 確率ケースコード

確率ケースコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 確率ケースコード

確率ケースコード	説明
AVR	平均ケース
MAX	最大ケース

(3) 経過年コード

経過年コードの説明を表 2-2 に示す。

表 2-2 経過年コード

経過年コード	説明
T30	評価基準日から30年
T50	評価基準日から50年

(4) 3次メッシュコード

3次メッシュコードはJIS X 0410(地域メッシュコード)及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002(地域メッシュコード追補 有効1)に準ずる。

3. データ記述規約

ハザードカーブデータは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴、及び評価基準日を記録する。以下にファイル

バージョン、作成日、更新履歴、評価基準日、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y

の形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD

の形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) 評価基準日

EPOCH = YYYY-MM-DD

の形式で記述する。

(5) データブロック

データブロックは、工学的基盤における最大速度に対応するハザードカーブデータを記述するブロックである。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。地震コードについては、「地震コード規約」を参照のこと。各データの書式は、C言語のprintf書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	BV	%8.4f	工学的基盤における最大速度 (cm/s)
02 以降	地震コード	%15.6e	各列の地震に対する超過確率

(6) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
VER. = 1.0

```

# DATE = 2009-04-08
#
# UPDATED
#
# EPOCH = 2008-01-01
# BV, TTL_MTTL, PLE_MTTL, PSE_MTTL, LND_MTTL, LND_A98F, PLE_ANNKI, PLE_AMIYA, PLE_ASNKT,
PSE_BTNMI, PSE_BNRML, PSE_BSNKT, PSE_BFKSM, PSE_BIBRK, PLE_ATKNM, PLE_ASKTN, PLE_AETRF,
PSE_BTKNM, PSE_BSKET, PSE_BITRS, PSE_BITRD, LND_BHKNW, LND_AHKDW, LND_AHKSU, LND_AAOMW,
LND_BAKIT, LND_AYMG, LND_ANIGT, LND_BSDGN, PSE_BAKND, PSE_BHGNL, PSE_BHGNS, PSE_BYNGN,
PLE_AKNTD, PSE_BKNTD, PSE_CPCF, PSE_CPHL, LND_CGR5, PSE_CURA, LND_CJPS, LND_CIZU,
LND_CNAN, LND_AGR1
0.0000, 1.000000e+00, 9.999983e-01, 1.000000e+00, 1.000000e+00,
6.753078e-01, 9.796747e-01, 9.993831e-01, 3.830000e-02, 2.015287e-01,
5.083622e-02, 9.296918e-01, 7.225651e-02, 8.556456e-01, 3.937588e-01,
4.690000e-01, 5.720000e-01, 8.199077e-01, 9.425674e-01, 3.039396e-01,
6.667629e-01, 4.600000e-04, 0.000000e+00, 0.000000e+00, 0.000000e+00,
2.955447e-02, 0.000000e+00, 0.000000e+00, 3.921056e-02, 3.609427e-01,
1.392920e-01, 7.286506e-01, 2.591818e-01, 1.030000e-03, 7.164890e-01,
1.000000e+00, 0.000000e+00, 9.999956e-01, 9.169278e-01, 9.956750e-01,
0.000000e+00, 0.000000e+00, 6.324847e-01
2.0000, 9.954681e-01, 6.503061e-01, 9.725912e-01, 5.271700e-01,
6.402677e-02, 0.000000e+00, 3.321662e-01, 3.830000e-02, 2.920827e-05,
2.874322e-02, 5.688416e-01, 8.604170e-04, 0.000000e+00, 2.430037e-01,
1.414278e-01, 1.622597e-01, 2.963224e-01, 2.684043e-03, 2.388525e-01,
3.173175e-01, 4.475108e-04, 0.000000e+00, 0.000000e+00, 0.000000e+00,
6.259821e-04, 0.000000e+00, 0.000000e+00, 1.919764e-03, 0.000000e+00,
0.000000e+00, 0.000000e+00, 0.000000e+00, 0.000000e+00, 0.000000e+00,
7.973518e-01, 0.000000e+00, 4.364467e-01, 1.135192e-01, 8.311048e-02,
0.000000e+00, 0.000000e+00, 1.940326e-02
(以下省略)

```

確率論的地震動予測地図：活断層ハザードカーブ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における、「主要活断層帯に発生する地震（地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震を含む）」と「その他の活断層に発生する地震」について、地震が発生する断層帯毎に再分解したハザードカーブを記述するファイル規約を示すものである。ハザードカーブデータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

「主要活断層帯に発生する地震（地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震を含む）」の活断層ハザードカーブ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-HZD-[確率ケースコード]-[経過年コード]-[地震グループコード]-[3次メッシュコード].csv

「その他の活断層に発生する地震」の活断層ハザードカーブ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-HZD-[確率ケースコード]-[経過年コード]-[断層コード]-[3次メッシュコード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 確率ケースコード

確率ケースコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 確率ケースコード

確率ケースコード	説明
AVR	平均ケース
MAX	最大ケース

(3) 経過年コード

経過年コードの説明を表 2-2 に示す。

表 2-2 経過年コード

経過年コード	説明
T30	評価基準日から30年
T50	評価基準日から50年

(4) 地震グループコード

地震グループコードは「地震グループコード規約」を参照のこと。

(5) 断層コード

断層コードは「断層コード規約」を参照のこと。

(6) 3次メッシュコード

3次メッシュコードは JIS X 0410 (地域メッシュコード) 及び JIS X 0410/AMENDMENT1:2002 (地域メッシュコード追補 有効1) に準ずる。

3. データ記述規約

ハザードカーブデータは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される GSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴、及び評価基準日を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、評価基準日、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD

の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(2) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(3) 評価基準日

EPOCH = YYYY-MM-DD

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、工学的基盤における最大速度に対応するハザードカーブデータを記述するブロックである。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。地震グループコードについては「地震グループコード規約」、断層コードについては「断層コード規約」を参照のこと。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	BV	%8.4f	工学的基盤における最大速度 (cm/s)
02	地震グループコードもしくは断層コード	%15.6e	地震グループもしくは断層コードで示した断層帯に発生する地震に対する超過確率

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	
#	
#DATE=2018-01-15	
#	
#UPDATED	
#	
#EPOCH=2017-01-01	
#BV, F015021_001	
0.0000,	1.468384e-02
2.0000,	1.468384e-02
4.0000,	1.467705e-02
6.0000,	1.451301e-02
8.0000,	1.398288e-02
10.0000,	1.302954e-02
12.0000,	1.174768e-02
14.0000,	1.029647e-02
16.0000,	8.822316e-03
18.0000,	7.428150e-03
20.0000,	6.172286e-03
(以下省略)	

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：矩形）記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図において考慮した断層形状を記述するファイルの規約を示すものである。本ファイル規約は、震源断層を特定でき、複数の矩形により表せる地震の断層形状を扱う。断層形状データ（震源特定：矩形）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

確率論的地震動予測地図データに対応する断層形状データ（震源特定：矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE1_[地震コード].csv
```

条件付超過確率地図データに対応する断層形状データ（震源特定：矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
C-[バージョンコード]-[断層コード]-FAULT-CASE1.csv
```

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
LND_A98F	主要断層帯に発生する固有地震
LND_AGR1	主要断層帯以外の活断層に発生する地震
PSE_AIBRK	茨城県沖の地震（繰り返し発生する地震）
LND_AA0MW	青森県西方沖の地震
LND_AHKDW	北海道西方沖の地震
LND_AHKSW	北海道南西沖の地震
LND_ANIGT	新潟県北部沖の地震
PLE_ASNKT	三陸沖北部のプレート間大地震（繰り返し発生する地震）
LND_AYMGA	山形県沖の地震
PLE_AMYAS	宮城県沖地震（繰り返し発生する地震）
PLE_ASNNK	三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震）

(3) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(4) 断層コード

断層コードは震源断層を一意に定めるコードとなっている。断層コードは「断層コード規約」を参照のこと。

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、地震情報ブロック、断層情報ブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、地震情報ブロック、及び断層情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED
YYYY-MM-DD 更新内容 1
YYYY-MM-DD 更新内容 2
...
の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード及び構成地震数を 1 行で記述する。各データは“,”で区切られる。地震コードは「地震コード規約」を参照のこと。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%4d	構成地震数

(5) 地震情報ブロック

地震情報ブロックは断層コード、マグニチュード、構成断層数、及び断層名を 1 行で記述する。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 地震情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	断層コード
02	%4.1f	マグニチュード
03	%4d	構成断層数
04	%s	断層名

注) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

(6) 断層情報ブロック

断層情報ブロックは矩形断層番号、基準緯度経度、断層上端深さ、断層長さ、断層幅、走向角、傾斜角を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 断層情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	矩形断層番号
02	%7.3f	矩形断層基準経度 (日本測地系)
03	%7.3f	矩形断層基準緯度 (日本測地系)
04	%7.3f	矩形断層基準経度 (世界測地系)
05	%7.3f	矩形断層基準緯度 (世界測地系)
06	%5.1f	矩形断層上端深さ (km)
07	%5.1f	矩形断層長さ (km)
08	%5.1f	矩形断層幅 (km)
09	%5.1f	走向角 (度)
10	%5.1f	傾斜角 (度)

注) 複数の重なり合う断層面が存在する場合、距離減衰式の地震動計算は、断層面を結合して行っている。複数断層面の結合方法の詳細は、防災科学技術研究所研究資料 第 314 号「距離減衰式による地震動予測ツールの開発」を参照。

ファイル情報ブロックに記述された構成地震数の回数分(5),(6)の組を繰り返す。

(7) データ記述例

データ記述例を表 3-4 に示す。

表 3-4 データ記述例

データ記述例	説明
#	コメント行
# VER. = 1.0	

# DATE = 2009-03-15 #	
LND_A98F, 169	ファイル情報ブロック
F000101, -7.1, 1, 標津断層帯	地震情報ブロック
1, 145.080, 43.960, 145.076, 43.962, 3.0, 56.0, 18.0, 216.0, 45.0	断層情報ブロック
F000201, -7.5, 1, 十勝平野断層帯主部	地震情報ブロック
1, 143.298, 42.544, 143.294, 42.547, 4.0, 84.0, 24.0, 9.0, 45.0 (以下省略)	断層情報ブロック

4. 改訂履歴

2010年5月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。

2010年9月 地震コードの地震名を一部修正。

2012年12月 地震コードの地震名を一部修正。地震コードに「宮城県沖地震（繰り返し発生する地震）」、「三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震）」を追加。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形）記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図において考慮した断層形状を記述するファイルの規約を示すものである。本ファイル規約は、震源断層を特定でき、複数の矩形断層面で表現できない地震の断層形状を扱う。断層形状データ（震源特定：非矩形）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

確率論的地震動予測地図データに対応する断層形状データ（震源特定：非矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE2_[地震コード].csv
```

条件付超過確率地図データに対応する断層形状データ（震源特定：非矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
C-[バージョンコード]-[断層コード]-FAULT-CASE1.csv
```

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PLE_ATHOP	東北地方太平洋沖型地震
PLE_AMIYA	宮城県沖地震及び三陸沖南部海溝寄りの地震
PLE_ATKNM	十勝沖・根室沖の地震
PLE_ASKTN	色丹島沖の地震
PLE_AETRF	択捉島沖の地震
PLE_ANNKI	南海トラフの地震（～2019年版）
PLE_AKNT0	大正型関東地震
PLE_ASGMI	相模トラフ沿いのM8クラスの地震
PLE_ACHSM	千島海溝沿いの超巨大地震
PLE_ATKCH	十勝沖のプレート間巨大地震
PLE_ANMRO	根室沖のプレート間巨大地震
PLE_AJTHK	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）
PLE_AAEIN	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震
PLE_AMYGI	宮城県沖のプレート間巨大地震

(3) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値 N は断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(4) 断層コード

断層コードは震源断層を一意に定めるコードとなっている。断層コードは「断層コード規約」を参照のこと。

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、断層情報ブロック、構成点情報ブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、断層情報ブロック、及び構成点情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED
YYYY-MM-DD 更新内容 1
YYYY-MM-DD 更新内容 2
...
の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード、構成断層数を1行で記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%4d	構成断層数

(5) 断層情報ブロック

断層情報ブロックは断層コード、マグニチュード、代表深さ、構成点数、コメントを1行で記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 断層情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	断層コード
02	%4.1f	マグニチュード
03	%5.1f	代表深さ(km)
04	%4d	構成点数
05	%s	断層名

注) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

(6) 構成点情報ブロック

構成点情報ブロックは構成点通番、緯度経度、深さを記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 構成点情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	構成点通番
02	%7.3f	構成点経度(日本測地系)
03	%7.3f	構成点緯度(日本測地系)
04	%7.3f	構成点経度(世界測地系)
05	%7.3f	構成点緯度(世界測地系)
06	%5.1f	構成点深さ(km)

ファイル情報ブロックに記述された断層数分(5),(6)の組を繰り返す。

(7) データ記述例

データ記述例を表 3-4 に示す。

表 3-4 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2009-03-03 #	コメント行
PLE_AMIYA, 6	ファイル情報ブロック
AMYA1, -7.6, 30.0, 142, 宮城県沖地震 A1	断層情報ブロック

データ記述例	説明
1, 141.834, 38.587, 141.830, 38.590, 43.9 2, 141.876, 38.575, 141.872, 38.578, 42.7 (中略)	構成点情報ブロック
AMYA2, -7.4, 30.0, 90, 宮城県沖地震 A2	断層情報ブロック
1, 142.052, 38.296, 142.048, 38.299, 30.8 (以下省略)	構成点情報ブロック

4. 改訂履歴

- 2010年5月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
- 2010年9月 地震コードの地震名を一部修正。
- 2012年12月 地震コードに「東北地方太平洋沖型地震」を追加。
- 2014年12月 地震コードに「相模トラフ沿いのM8クラスの地震」を追加。
- 2018年6月 地震コードに「千島海溝沿いの超巨大地震」、「十勝沖のプレート間巨大地震」、「根室沖のプレート間巨大地震」を追加。
- 2021年3月 地震コードの地震名を一部修正。地震コードに「日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）」、「青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震」、「宮城県沖のプレート間巨大地震」を追加。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図（2020年版以降）において考慮した断層形状を記述するファイルの規約を示すものである。本ファイル規約は、南海トラフ沿いで発生する大地震の断層形状を扱う。断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

確率論的地震動予測地図データに対応する断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE2_[地震コード]_[発生パターンコード].csv
```

条件付超過確率地図データに対応する断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
C-[バージョンコード]-ANNKI-[発生パターンコード]-FAULT-CASE1.csv
```

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PLE_ANNKI	南海トラフ沿いで発生する大地震（2020年版～）

(3) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(4) 発生パターンコード

発生パターンコードは発生パターンを一意に定めるコードとなっており、AN001～AN177である。

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、構成地震情報ブロック、構成点情報ブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新

履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、構成地震情報ブロック、及び構成点情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード、発生パターンコード、構成地震数を 1 行で記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%s	発生パターンコード
03	%4d	構成地震数

(5) 構成地震情報ブロック

構成地震情報ブロックは構成地震通番、マグニチュード、代表深さ、構成点数、震源域番号を 1 行で記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 断層情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	構成地震通番
02	%4.1f	マグニチュード
03	%5.1f	代表深さ (km)
04	%4d	構成点数
05	%4d	震源域番号

注) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

(6) 構成点情報ブロック

構成点情報ブロックは構成点通番、緯度経度、深さを記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 構成点情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	構成点通番
02	%7.3f	構成点経度（日本測地系）
03	%7.3f	構成点緯度（日本測地系）
04	%7.3f	構成点経度（世界測地系）
05	%7.3f	構成点緯度（世界測地系）
06	%5.1f	構成点深さ(km)

ファイル情報ブロックに記述された構成地震数分(5),(6)の組を繰り返す。

(7) データ記述例

データ記述例を表 3-4 に示す。

表 3-4 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2021-03-26 #	コメント行
PLE_ANNKI, AN002, 2	ファイル情報ブロック
1, -8.6, 20.0, 1821, 24	構成地震情報ブロック
1, 133.167, 31.853, 133.166, 31.850, 7.4 2, 133.140, 31.892, 133.139, 31.889, 8.1 (中略)	構成点情報ブロック
2, -8.0, 20.0, 399, 50	構成地震情報ブロック
1, 137.005, 34.284, 137.003, 34.281, 19.2 (以下省略)	構成点情報ブロック

4. 改訂履歴

2021年3月 初版

2021年6月 条件付超過確率地図データに対応するファイルのファイル命名規約を修正

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化矩形）記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における海溝型地震のうち、地震発生領域内で離散化された矩形断層（以下、領域離散化矩形）の形状を記述するファイルの規約を示すものである。領域離散化矩形の形状データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（領域離散化矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE3_[地震コード].csv

ただし、「南関東で発生する M7 程度の地震」については、以下の表 2-1 に示すファイル名とする。

表 2-1 「南関東で発生する M7 程度の地震」のファイル命名規約

地震種別	ファイル名
フィリピン海プレート上面の地震	P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE3_PSE_BKNT0_INTER_PHL.csv
太平洋プレート上面の地震	P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE3_PSE_BKNT0_INTER_PCF.csv
フィリピン海プレート内の地震	P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE3_PSE_BKNT0_INTRA_PHL.csv

(1) 年コード

YNNNN の形式で記述する。NNNN は、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。X は 2 以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 2-2 に示す。

表 2-2 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_BTNMI	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート間大地震（津波地震）
PSE_BNRML	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート内大地震（正断層型）
PSE_BSNKT	三陸沖北部のプレート間大地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PSE_BSNK	三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PSE_BMYAS	宮城県沖地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PSE_BFKSM	福島県沖の地震
PSE_BIBRK	茨城県沖の地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PSE_BTKNM	十勝沖・根室沖のひとまわり小さいプレート間地震

地震コード	地震名
PSE_BSKET	色丹島沖・択捉島沖のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BITRS	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや浅い地震
PSE_BITRD	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや深い地震
LND_BHKNW	北海道北西沖の地震
LND_BAKIT	秋田県沖の地震
LND_BSDGN	佐渡島北方沖の地震
PSE_BAKND	安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震
PSE_BHGNL	日向灘のプレート間地震
PSE_BHGNS	日向灘のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BYNGN	与那国島周辺の地震
PSE_BKNT0	相模トラフ沿いの地震:その他の南関東で発生する M7 程度の地震
PSE_BJPTN	日本海溝寄りのプレート間地震 (津波地震等)
PSE_BJOUT	日本海溝の海溝軸外側の地震

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、マグニチュード相対確率情報ブロック、領域離散化情報ブロック、離散化矩形断層情報ブロックから構成される GSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、マグニチュード相対確率情報ブロック、領域離散化情報ブロック、及び離散化矩形断層情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード、領域離散化種類数、マグニチュード離散化数、及び連続発生回数を1行で記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表3-1に示す。各データの書式は、C言語のprintf書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%4d	領域離散化種類数 ※1
03	%4d	マグニチュード離散化数 ※2
04	%4d	連続発生回数 ※3

※1 領域内で発生位置が評価されなかった地震はマグニチュードにより矩形断層のサイズを定義し領域内に満遍なく配置するように離散化する。その時の離散化の種類数を示す。

※2 長期評価マグニチュードに幅がある場合は、マグニチュード毎に相対確率の値を定義する。その時のマグニチュードの数を示す。

※3 1回地震が発生すると後続の地震が発生するような場合、同じ断層面で「連続発生回数」だけ地震が発生するとしてモデル化する。

(5) マグニチュード相対確率情報ブロック

マグニチュード相対確率情報ブロックは、マグニチュード通番、マグニチュード、相対確率、及び領域離散化識別子を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内行数は(4)で示したマグニチュード離散化数と一致する。ブロック内記述方法を表3-2に示す。

表 3-2 マグニチュード相対確率情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	マグニチュード通番
02	%4.1f	マグニチュード
03	%7.5f	相対確率
04	%4d	領域離散化識別子

注) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

(6) 領域離散化情報ブロック

領域離散化情報ブロックは、領域離散化識別子、矩形断層長さ、断層幅、構成断層数を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表3-3に示す。

表 3-3 領域離散化情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	領域離散化識別子

02	%5.1f	離散化サイズ(断層長さ, km)
03	%5.1f	離散化サイズ(断層幅, km)
04	%4d	構成断層数

(7) 離散化矩形断層情報ブロック

離散化矩形断層情報ブロックは矩形断層番号、矩形基準位置、走向角、傾斜角を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内行数は(6)で示した構成断層数と一致する。本ブロックに記述された矩形断層集合は全て同じ地震発生確率でモデル化する。ブロック内記述方法を表 3-4 に示す。

表 3-4 離散化矩形断層情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	矩形断層番号
02	%7.3f	矩形断層基準経度 (日本測地系)
03	%7.3f	矩形断層基準緯度 (日本測地系)
04	%7.3f	矩形断層基準経度 (世界測地系)
05	%7.3f	矩形断層基準緯度 (世界測地系)
06	%5.1f	矩形断層上端深さ(km)
07	%5.1f	走向角(度)
08	%5.1f	傾斜角(度)

ファイル情報ブロックに記述された領域離散化種類数の回数分(6), (7)の組を繰り返す。

(8) データ記述例

データ記述例を表 3-5 に示す。

表 3-5 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2009-03-15 #	コメント行
PSE_BSNKT, 2, 6, 1	ファイル情報ブロック
1, -7.1, 0.26300, 1 2, -7.2, 0.21400, 1 3, -7.3, 0.17400, 1 4, -7.4, 0.14100, 2 5, -7.5, 0.11500, 2 6, -7.6, 0.09300, 2	マグニチュード相対確率情報 ブロック
1, 40.0, 40.0, 54	領域離散化情報ブロック

データ記述例	説明
1, 144.031, 41.245, 144.027, 41.248, 14.3, 215.0, 7.0 (中略) 54, 142.342, 40.061, 142.338, 40.064, 40.7, 186.0, 21.0	離散化矩形断層情報ブロック
2, 60.0, 60.0, 28	領域離散化情報ブロック
1, 144.071, 41.282, 144.067, 41.285, 12.7, 205.0, 9.0 (中略) 28, 142.560, 40.197, 142.556, 40.200, 34.9, 185.0, 20.0	離散化矩形断層情報ブロック

4. 改訂履歴

2010年9月 地震コードの地震名を一部修正。

2012年12月 地震コードの地震名を一部修正。地震コードに「宮城県沖地震（繰り返し発生する地震以外の地震）」、「三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震以外の地震）」を追加。

2013年11月 マグニチュード毎の相対確率の記載方法に関する規約を改訂

2021年3月 地震コードに「日本海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）」、「日本海溝の海溝軸外側の地震」を追加。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源不特定領域離散化矩形）記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における震源断層を予め特定しにくい地震のうち、地震発生領域内で離散化された矩形断層（以下、震源不特定領域離散化矩形）の形状を記述するファイルの規約を示すものである。震源不特定領域離散化矩形の形状データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（震源不特定領域離散化矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE4_[地震コード]_[地震種類コード]_[領域コード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 2-1 に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_GPCF	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_GPHL	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_COUT	海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）（～2019年版） 太平洋プレートの海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）（2020年版～）
PSE_CPHO	フィリピン海プレートの海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）

(3) 地震種類コード

地震種類コードの説明を表 2-2 に示す。

表 2-2 地震種類コード

地震種類コード	説明
INTER	プレート間地震
INTRA	プレート内地震

(4) 領域コード

領域コードは2桁の整数とする。

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、マグニチュード累積頻度情報ブロック、領域離散化情報ブロック、離散化矩形断層情報ブロックから構成される GSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、マグニチュード累積頻度情報ブロック、領域離散化情報ブロック、及び離散化矩形断層情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED
 # YYYY-MM-DD 更新内容 1
 # YYYY-MM-DD 更新内容 2
 ...
 の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード、領域離散化種類数、及びマグニチュード離散化数を 1 行で記述する。各データは“,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%4d	領域離散化種類数 ※1
03	%4d	マグニチュード離散化数 ※2

※1 マグニチュードにより矩形断層のサイズを定義し領域内に満遍なく配置するように離散化する。その時の離散化の種類数を示す。

※2 最小マグニチュードから最大マグニチュードまで 0.1 刻みに累積発生頻度を定義する。その時のマグニチュードの数を示す。

(5) マグニチュード累積頻度情報ブロック

マグニチュード累積頻度情報ブロックは、マグニチュード通番、マグニチュード、累積頻度、及び領域離散化識別子を記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内行数は(4)で示したマグニチュード離散化数と一致する。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 マグニチュード累積頻度情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	マグニチュード通番
02	%4.1f	マグニチュード
03	%7.5f	累積頻度
04	%4d	領域離散化識別子

注 1) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

注 2) 累積頻度は領域離散化識別子が同じ値のグループごとに計算している。

(6) 領域離散化情報ブロック

領域離散化情報ブロックは、領域離散化識別子、矩形断層長さ、断層幅、構成断層数を記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 領域離散化情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	領域離散化識別子
02	%5.1f	離散化サイズ(断層長さ, km)
03	%5.1f	離散化サイズ(断層幅, km)
04	%4d	構成断層数

(7) 離散化矩形断層情報ブロック

離散化矩形断層情報ブロックは矩形断層番号、矩形基準位置、走向角、傾斜角を記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内行数は(6)で示した構成断層数と一致する。本ブロックに記述された矩形断層集合は全て同じ地震発生確率でモデル化する。ブロック内記述方法を表 3-4 に示す。

表 3-4 離散化矩形断層情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	矩形断層番号
02	%7.3f	矩形断層基準経度 (日本測地系)
03	%7.3f	矩形断層基準緯度 (日本測地系)
04	%7.3f	矩形断層基準経度 (世界測地系)
05	%7.3f	矩形断層基準緯度 (世界測地系)
06	%5.1f	矩形断層上端深さ (km)

07	%5.1f	走向角(度)
08	%5.1f	傾斜角(度)

ファイル情報ブロックに記述された領域離散化種類数の回数分(6),(7)の組を繰り返す。

(8) データ記述例

データ記述例を表 3-5 に示す。

表 3-5 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2014-12-16 #	コメント行
PSE_GPCF, 2, 10	ファイル情報ブロック
1, 7.6, 0.01960, 1 2, 7.7, 0.01391, 1 3, 7.8, 0.00929, 1 4, 7.9, 0.00554, 1 5, 8.0, 0.00248, 1 6, 8.1, 0.00695, 2 7, 8.2, 0.00494, 2 8, 8.3, 0.00330, 2 9, 8.4, 0.00196, 2 10, 8.5, 0.00088, 2	マグニチュード累積頻度情報 ブロック
1, 80.0, 80.0, 121	領域離散化情報ブロック
1, 141.046, 34.485, 141.043, 34.488, 41.6, 182.0, 0.0 (中略) 121, 142.505, 26.403, 142.502, 26.407, 16.9, 188.0, 0.0	離散化矩形断層情報ブロック
2, 170.0, 120.0, 39	領域離散化情報ブロック
1, 141.356, 34.502, 141.353, 34.505, 10.9, 179.0, 24.0 (中略) 39, 142.269, 32.823, 142.266, 32.827, 8.8, 173.0, 5.0	離散化矩形断層情報ブロック

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化非矩形）記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における海溝型地震のうち、地震発生領域内で離散化された非矩形断層（以下、領域離散化非矩形）の形状を記述するファイルの規約を示すものである。領域離散化非矩形の形状データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（領域離散化非矩形）記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHP_TYPE5_[地震コード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_BCHTN	千島海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、断層情報ブロック、離散化非矩形断層構成点情報ブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、断層情報ブロック、及び離散化非矩形断層構成点情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード、断層数を1行で記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%4d	断層数

(5) 断層情報ブロック

断層情報ブロックは、断層識別子、マグニチュード、代表深さ、相対発生確率、構成点数を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 領域離散化情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	断層識別子
02	%4.1f	マグニチュード
03	%5.1f	代表深さ (km)
04	%7.5f	相対発生確率
05	%4d	構成点数

注) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

(6) 離散化非矩形断層構成点情報ブロック

離散化非矩形断層構成点情報ブロックは構成点通番、緯度経度、深さを記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内行数は(5)で示した構成点数と一致する。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 離散化非矩形断層構成点情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	構成点通番
02	%7.3f	構成点経度 (日本測地系)
03	%7.3f	構成点緯度 (日本測地系)
04	%7.3f	構成点経度 (世界測地系)

05	%7.3f	構成点緯度（世界測地系）
06	%5.1f	構成点深さ(km)

ファイル情報ブロックに記述された断層数の回数分(5), (6)の組を繰り返す。

(7) データ記述例

データ記述例を表 3-4 に示す。

表 3-4 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2018-06-28 #	コメント行
PSE_BCHTN, 20	ファイル情報ブロック
1, -8.0, 10.0, 0.05000, 466	断層情報ブロック
1, 146.387, 41.840, 146.383, 41.843, 0.5 (中略) 466, 144.181, 41.223, 144.177, 41.226, 8.2	離散化非矩形断層構成点情報ブ ック
2, -8.0, 10.0, 0.05000, 460	断層情報ブロック
1, 147.137, 42.175, 147.133, 42.178, 0.8 (中略) 460, 145.093, 41.735, 145.089, 41.738, 6.2	離散化非矩形断層構成点情報ブ ック

確率論的地震動予測地図：地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震 断層形状データ・地震活動評価パラメータ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震の断層形状および地震活動評価パラメータを記述するファイルの規約を示すものである。断層形状データおよび地震活動評価パラメータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震の断層形状データ・地震活動評価パラメータ記述ファイルのファイル名を表 2-1 に示す。年コードは、YNNNN の形式で記述する。NNNN は、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。X は2以上のモデル識別番号を示す。

表 2-1 ファイル命名規約

地震種別	ファイル名
主要活断層帯に発生する「地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震」の地震活動評価パラメータ(平均ケース)および断層形状データ	P-[年コード]-PRM-AVR_LND_A98F_EQTHR.csv
主要活断層帯に発生する「地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震」の地震活動評価パラメータ(最大ケース)および断層形状データ	P-[年コード]-PRM-MAX_LND_A98F_EQTHR.csv

3. データ記述規約

断層形状データは“#”で始まる複数行のコメントとファイル情報ブロック、地震情報ブロック、断層情報ブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、ファイル情報ブロック、地震情報ブロック、及び断層情報ブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は2桁の月、DD は2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1
 # YYYY-MM-DD 更新内容 2
 ...

の形式で記述する。

(4) ファイル情報ブロック

ファイル情報ブロックはファイル内に記述された地震コード及び構成地震数を1行で記述する。各データは”,”で区切られる。地震コードは「地震コード規約」を参照のこと。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C言語のprintf書式指定子で表す。

表 3-1 ファイル情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	地震コード
02	%4d	構成地震数

(5) 地震情報ブロック

地震情報ブロックは断層コード、構成断層数、断層数並びに地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震の平均活動間隔、最小・最大マグニチュード、b値を1行で記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 地震情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%s	断層コード
02	%6d	平均活動間隔 (年)
03	%3.1f	最小マグニチュード
04	%3.1f	最大マグニチュード
05	%4.1f	b 値
06	%4d	構成断層数
07	%s	断層名

注) マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

(6) 断層情報ブロック

断層情報ブロックは矩形断層番号、基準緯度経度、断層上端深さ、断層長さ、断層幅、走向角、傾斜角を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 断層情報ブロック

列番号	書式	説明
01	%4d	矩形断層番号

02	%7.3f	矩形断層基準経度（日本測地系）
03	%7.3f	矩形断層基準緯度（日本測地系）
04	%7.3f	矩形断層基準経度（世界測地系）
05	%7.3f	矩形断層基準緯度（世界測地系）
06	%5.1f	矩形断層上端深さ(km)
07	%5.1f	矩形断層長さ(km)
08	%5.1f	矩形断層幅(km)
09	%5.1f	走向角(度)
10	%5.1f	傾斜角(度)

ファイル情報ブロックに記述された構成地震数の回数分(5),(6)の組を繰り返す。

(7) データ記述例

データ記述例を表 3-4 に示す。

表 3-4 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2015-10-30 #	コメント行
LND_A98F, 193	ファイル情報ブロック
F000101, 34000, 6.8, 7.4, 0.9, 1, 標津断層帯	地震情報ブロック
1, 145.084, 43.958, 145.080, 43.960, 3.0, 56.0, 18.0, 216.0, 45.0	断層情報ブロック
F000201, 39000, 6.8, 7.4, 0.9, 1, 十勝平野断層帯主部	地震情報ブロック
1, 143.302, 42.541, 143.298, 42.544, 4.0, 84.0, 24.0, 9.0, 45.0 (以下省略)	断層情報ブロック

確率論的地震動予測地図：地震活動評価パラメータ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における地震活動評価パラメータを記述するファイルの規約を示すものである。地震活動評価パラメータデータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

地震活動評価パラメータ記述ファイルのファイル名を表 2-1 に示す。年コードは、YNNNN の形式で記述する。NNNN は、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。X は 2 以上のモデル識別番号を示す。

表 2-1 ファイル命名規約

地震種別	ファイル名
主要活断層帯に発生する固有地震の地震活動評価パラメータ (平均ケース)	P-[年コード]-PRM-ACT_AVR_LND_A98F.csv
主要活断層帯に発生する固有地震の地震活動評価パラメータ (最大ケース)	P-[年コード]-PRM-ACT_MAX_LND_A98F.csv
海溝型地震の地震活動評価パラメータ (平均ケース)	P-[年コード]-PRM-ACT_AVR_PME_M TTL.csv
海溝型地震の地震活動評価パラメータ (最大ケース)	P-[年コード]-PRM-ACT_MAX_PME_M TTL.csv
主要活断層帯以外の活断層に発生する地震の地震動評価パラメータ	P-[年コード]-PRM-ACT_AVR_LND_AGR1.csv

3. データ記述規約

地震活動評価パラメータは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴、及び評価基準日を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、評価基準日、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) 評価基準日

EPOCH = YYYY-MM-DD の形式で記述する。

(5) データブロック

データブロックは断層コードに対する地震活動評価パラメータを記述するブロックである。断層コードについては、「断層コード規約」を参照のこと。各データ列は”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%s	断層コード
02	PROC	%s	確率過程 (BPT : BPT 過程、POI : ポアソン過程、COM: BPT 過程とポアソン過程を併用、BSI: BPT 過程 (同時活動モデル)、PSI: ポアソン過程 (同時活動モデル)、SIM: 同時活動モデル、XXX : 評価なし)
03	AVRACT	%10.1f	平均活動間隔 (年)
04	NEWACT	%10.1f	最新活動時期 (年前 : 評価基準日に対する)
05	ALPHA	%4.2f	ばらつき
06	P_T30	%8.2e	30 年発生確率*
07	P_T50	%8.2e	50 年発生確率*
08	NAME	%s	断層名

※一回以上地震が発生する確率。

注) 地震活動評価パラメータが定義されていない項目は ' - ' と記載する。

(6) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
VER. = 1.0 # # DATE = 2009-03-15 # # UPDATED

データ記述例

```
# EPOCH = 2009-01-01
# CODE, PROC, AVRACT, NEWACT, ALPHA, P_T30, P_T50, NAME
F000101, POI, 17000.0, -, 0.00, 1.76e-03, 2.94e-03, 標津断層帯
F000201, POI, 19500.0, -, 0.00, 1.54e-03, 2.56e-03, 十勝平野断層帯主部
F000202, POI, 14000.0, -, 0.00, 2.14e-03, 3.57e-03, 光地園断層
F000301, BPT, 4000.0, 1089.5, 0.24, 0.00e+00, 0.00e+00, 富良野断層帯西部
F000302, BPT, 15500.0, 3350.0, 0.24, 0.00e+00, 0.00e+00, 富良野断層帯東部
F000401, POI, 5000.0, -, 0.00, 5.98e-03, 9.95e-03, 増毛山地東縁断層帯
F000402, POI, 12000.0, -, 0.00, 2.50e-03, 4.16e-03, 沼田一砂川付近の断層帯
F000501, BPT, 11250.0, 6600.0, 0.24, 8.15e-04, 1.38e-03, 当別断層
(以下省略)
```

4. 改訂履歴

- 2014年12月 ファイル命名規約表を修正。データブロック PROC の説明を追加。
- 2016年6月 データブロック PROC の説明を追加。

確率論的地震動予測地図：震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における震源断層を予め特定しにくい地震の活動パラメータを記述するファイルの規約を示すものである。震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_[頻度計算手法コード]_[カタログコード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 2-1 に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_CPCF	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPHL	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
LND_CGR5	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震
PSE_CURA	浦河沖の震源を予め特定しにくい地震
LND_CJPS	日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CIZU	伊豆諸島以南の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CNAN	南西諸島付近の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CYNG	与那国島周辺の震源断層を予め特定しにくい地震
PSE_COUT	太平洋プレートの海溝軸より沖合の地震(アウターライズ)(2020年版～)
PSE_CPHO	フィリピン海プレートの海溝軸より沖合の地震(アウターライズ)

(3) 地震種類コード

地震種類コードの説明を表 2-2 に示す。

表 2-2 地震種類コード

地震種類コード	説明
CRUST	地殻内地震
INTER	プレート間地震
INTRA	プレート内地震

(4) 頻度計算手法コード

頻度計算手法コードの説明を表 2-3 に示す。

表 2-3 頻度計算手法コード

頻度計算手法コード	説明
FR	地域区分しない方法
SC	地域区分する方法
SL	大領域に区分する方法
CV	合成

(5) カタログコード

カタログコードの説明を表 2-4、表 2-5 に示す。

表 2-4 カタログコード (2019 年版以前)

カタログコード	説明
SS	小地震カタログ
MM	中地震カタログ
SM	小中地震カタログを合成

表 2-5 カタログコード (2020 年版以降)

カタログコード	説明
SS_EXCAF	小地震カタログ/余震除去
SS_INCAF	小地震カタログ/余震含む
MM_EXCAF	中地震カタログ/余震除去
MM_INCAF	中地震カタログ/余震含む
SM	小中地震カタログ、余震除去/余震含むを合成

地震毎に用意されるファイルは以下のとおりである。

● 2019 年版以前

- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_FR_SS.csv
小地震/地域区分しない
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_FR_MM.csv
中地震/地域区分しない
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SC_SS.csv
小地震/地域区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SC_MM.csv
中地震/地域区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SL_SS.csv
小地震/大領域に区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SL_MM.csv
中地震/大領域に区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_CV_SM.csv
全ケースの合成

● 2020 年版以降

- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_FR_SS_EXCAF.csv
小地震/余震を除去する/地域区分しない
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_FR_SS_INCAF.csv
小地震/余震を含む/地域区分しない
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_FR_MM_EXCAF.csv
中地震/余震を除去する/地域区分しない
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_FR_MM_INCAF.csv
中地震/余震を含む/地域区分しない
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SC_SS_EXCAF.csv
小地震/余震を除去する/地域区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SC_SS_INCAF.csv
小地震/余震を含む/地域区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SC_MM_EXCAF.csv
中地震/余震を除去する/地域区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SC_MM_INCAF.csv
中地震/余震を含む/地域区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SL_SS_EXCAF.csv
小地震/余震を除去する/大領域に区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SL_SS_INCAF.csv
小地震/余震を含む/大領域に区分する
- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SL_MM_EXCAF.csv

中地震/余震を除去する/大領域に区分する

- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_SL_MM_INCAF.csv

中地震/余震を含む/大領域に区分する

- P-[年コード]-PRM-ACT_[地震コード]_[地震種類コード]_CV_SM.csv

合成

※1 南西諸島付近および与那国島周辺の震源断層を予め特定しにくい地震については中地震カタログのみとし2ケースの合成値となる。

※大領域に区分する方法は、陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震、日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震、伊豆諸島以南の震源断層を予め特定しにくい地震のみとなる。

3. データ記述規約

震源断層を予め特定しにくい地震発生頻度データは“#”で始まる複数行のコメントと“#”で始まる1行のヘッダ行、複数行のデータ行から構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックはメッシュ内の活動パラメータを記述するブロックである。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C言語のprintf書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	MNO	%6d	メッシュ番号

02	JLG	%7.3f	メッシュ中心経度（日本測地系）
03	JLA	%7.3f	メッシュ中心緯度（日本測地系）
04	WLG	%7.3f	メッシュ中心経度（世界測地系）
05	WLA	%7.3f	メッシュ中心緯度（世界測地系）
06	FRQ	%8.5e	地震発生頻度
07	BVL	%7.3f	メッシュ内 b 値
08	MMN	%4.1f	メッシュ内最小マグニチュード
09	ANO	%3d	地域区分番号
10	DEP	%5.1f	メッシュ代表震源深さ (km)
11	STR	%5.1f	走向角度(度)
12	DIP	%5.1f	傾斜角度(度)

注 1) 地域区分しない方法のパラメータ

- ・ 相関距離 25km
- ・ 打ち切り距離 相関距離×3

注 2) 地震発生頻度が 0 のメッシュはその地震区分に含まれないものとする。

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
#
VER. = 1.0
#
DATE = 2009-03-02
#
UPDATED
#
MNO, JLG, JLA, WLG, WLA, FRQ, BVL, MMN, ANO, DEP, STR, DIP
1, 128.500, 32.200, 128.498, 32.203, 3.16793e-03, 0.900, 5.0, 1, 30.0, 225.0, 45.0
(以下省略)

4. 改訂履歴

- 2010年9月 地震コードの地震名を一部修正
- 2014年12月 大領域に区分する方法についての記述を追加
- 2021年3月 地震コード、カタログコードの追加

確率論的地震動予測地図：地域区分形状データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における震源断層を予め特定しにくい地震で用いた地域区分形状を記述するファイルの規約を示すものである。地域区分形状データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

地域区分形状データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-AREA_SHP_[地震コード]_[領域コード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_CPCF	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPHL	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
LND_CGR5	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震
PSE_CURA	浦河沖の震源を予め特定しにくい地震
LND_CURA	浦河沖の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CJPS	日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CIZU	伊豆諸島以南の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CNAN	南西諸島付近の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CYNG	与那国島周辺の震源断層を予め特定しにくい地震
PSE_COUT	海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）（～2019年版） 太平洋プレートの海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）（～2020年版）

(3) 領域コード

領域コードは2桁の整数とする。

3. データ記述規約

地域区分形状データは“#”で始まる複数行のコメントと“#”で始まる1行のヘッダ行、複数行のデータ行から構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任

意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記述する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは地域区分のノード緯度経度を記述するブロックである。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	JLON	%8.4f	ノード経度 (日本測地系)
02	JLAT	%8.4f	ノード緯度 (日本測地系)
03	WLON	%8.4f	ノード経度 (世界測地系)
04	WLAT	%8.4f	ノード緯度 (世界測地系)

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
#
VER. = 1.0
#
DATE = 2009-03-06
#
UPDATED

データ記述例

#

JLON, JLAT, WLON, WLAT

141.7500, 43.1500, 141.7462, 43.1524

141.7170, 43.0000, 141.7132, 43.0024

(以下省略)

4. 改訂履歴

2010年9月 地震コードの地震名を一部修正。

2021年3月 地震コードの地震名を一部修正。地震コードを追加。

確率論的地震動予測地図：プレート間/プレート内地震比率データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における震源断層を予め特定しにくい地震で用いた太平洋プレート・フィリピン海プレートの、プレート間/プレート内地震比率を記述するファイルの規約を示すものである。プレート間/プレート内地震比率データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

プレート間/プレート内地震比率データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
P-[年コード]-PRM-RATIO_INTER_INTRA.csv
```

震源不特定領域離散化矩形が設定されているマグニチュード範囲のプレート間/プレート内地震比率データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
P-[年コード]-PRM-RATIO_INTER_INTRA_TYPE4.csv
```

年コードは、YNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

3. データ記述規約

プレート間/プレート内地震比率データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、地震コード、地域区分番号に対応するプレート間とプレート内の地震比率を記述するブロックである。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	EQCODE	%s	地震コード
02	ANO	%2d	地域区分番号
03	INTERR	%2d	プレート間比率
04	INTRAR	%2d	プレート内比率

地震コードについては、「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 3-2 に示す。

表 3-2 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_GPCF	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_GPHL	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-3 に示す。

表 3-3 データ記述例

データ記述例
VER. = 1.0 # # DATE = 2007-09-19 # # UPDATED # 2007-09-19 add header # # EQCODE, ANO, INTERR, INTRAR PSE_GPCF, 2, 3, 1 (以下省略)

確率論的地震動予測地図：距離減衰式用パラメータ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における距離減衰式用パラメータを記述するファイルの規約を示すものである。距離減衰式用パラメータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

距離減衰式用パラメータ記述ファイルは以下のファイル名とする。年コードはYNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

P-[年コード]-PRM-ATTENUATION_FORMULA.csv

3. データ記述規約

距離減衰式用パラメータは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED
YYYY-MM-DD 更新内容 1
YYYY-MM-DD 更新内容 2
...
の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、地震コード、地震種類コードに対応する距離減衰式用パラメータを記述するブロックである。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C言語のprintf書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	EQCODE	%s	地震コード
02	EQTYPE	%1d	地震種類コード(1~3の整数)
03	SPTYPE	%1d	震源形状コード(1~2の整数)
04	MTTYPE	%1d	マグニチュード変換コード(1~2の整数)
05	CRTYPE	%1d	補正種類コード(0~2の整数)

注) 地震カテゴリーⅠ、Ⅱの地震は振幅に依存したばらつき、地震カテゴリーⅢの地震は震源距離に依存したばらつきを使用する。

1) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。

2) 地震種類コード

地震種類コードを表 3-2 に示す。

表 3-2 地震種類コード

地震種類コード	説明
1	地殻内地震
2	プレート間地震
3	プレート内地震

3) 震源形状コード

震源形状コードを表 3-3 に示す。

表 3-3 震源形状コード

震源形状コード	説明
1	点震源
2	円形震源
3	矩形震源
4	領域離散化矩形
5	領域離散化非矩形

注) 円形震源の半径は宇津の式より $r = \sqrt{10^{M-4} / \pi}$ にて求める。

4) マグニチュード変換コード

マグニチュードが Mj で与えられている場合に用いた Mw への変換コードを表 3-4 に示す。

表 3-4 マグニチュード変換コード

マグニチュード変換コード	説明
1	Mw=Mj
2	Mw=0.78Mj+1.08

5) 補正種類コード

補正種類コードを表 3-5 に示す。

表 3-5 補正種類コード

補正種類コード	説明
0	補正なし
1	東北日本に対する補正を適用
2	西南日本に対する補正を適用 (フィリピン海プレートの地域区分4で発生する地震のみ)

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-6 に示す。

表 3-6 データ記述例

データ記述例
<pre># # VER. = 1.0 # # DATE = 2007-09-19 # # UPDATED # 2007-09-19 add header # # EQCODE, EQTYPE, SPTYPE, MTTYPE, CRCTYPE PSE_GPCF, 3, 2, 1, 1 (以下省略)</pre>

4. 改訂履歴

2010年2月 マグニチュード変換コードの適用範囲の明確化
西南日本に対する補正を適用する地震の明確化

確率論的地震動予測地図：太平洋プレート/フィリピン海プレート形状データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における震源断層を予め特定しにくい地震で用いた太平洋プレート/フィリピン海プレート形状を記述するファイルの規約を示すものである。プレート形状データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

太平洋プレート/フィリピン海プレート形状データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-PLATE_SHP_[地震コード].csv

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_GPCF	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPHL	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震

3. データ記述規約

太平洋プレート/フィリピン海プレート形状データは“#”で始まる複数行のコメントと“#”で始まる1行のヘッダ行、複数行のデータ行から構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

```
# UPDATED
# YYYY-MM-DD 更新内容 1
# YYYY-MM-DD 更新内容 2
...
```

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、プレート形状の緯度、経度、及び深さを記述するブロックである。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式はC言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	MNO	%6d	メッシュ番号
02	JLG	%7.3f	メッシュ中心経度 (日本測地系)
03	JLA	%7.3f	メッシュ中心緯度 (日本測地系)
04	WLG	%7.3f	メッシュ中心経度 (世界測地系)
05	WLA	%7.3f	メッシュ中心緯度 (世界測地系)
06	DEP	%5.1f	メッシュ代表深さ (km)

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
VER. = 1.0 # DATE = 2009-03-06 # # MNO, JLG, JLA, WLG, WLA, DEP 1, 136.800, 35.600, 136.797, 35.603, 57.4 (以下省略)

確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における長期間平均ハザード地図データを記述するファイルの規約を示すものである。長期間平均ハザード地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

長期間平均ハザード地図データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
A-[バージョンコード]-MAP-AVR-TTL_M TTL.csv
```

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

```
A-[バージョンコード]-MAP-AVR-TTL_M TTL-[1次メッシュコード].csv
```

(1) バージョンコード

バージョンコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 バージョンコード

バージョンコード	概要
V1	2012年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V2	2013年版モデル2の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V3	2013年版モデル1の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V4	2014年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V5	2016年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V6	2017年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V7	2018年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V8	2020年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価

(2) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410（地域メッシュコード）及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002（地域メッシュコード追補 有効1）に準ずる。

3. データ記述規約

長期間平均ハザード地図データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED
 # YYYY-MM-DD 更新内容 1
 # YYYY-MM-DD 更新内容 2
 ...
 の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、250m メッシュコードに対応する長期間平均ハザード地図データを記述するブロックである。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
1	CODE	%10-11c	250m メッシュコード
2	A0500_SI	%s	再現期間 500 年相当の震度※
3	A1000_SI	%s	再現期間 1000 年相当の震度※
4	A5000_SI	%s	再現期間 5000 年相当の震度※
5	A010K_SI	%s	再現期間 1 万年相当の震度※
6	A050K_SI	%s	再現期間 5 万年相当の震度※
7	A100K_SI	%s	再現期間 10 万年相当の震度※

※5L, 5U, 6L, 6U はそれぞれ震度 5 弱、5 強、6 弱、6 強を表す。

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
VER. = 1.0 # # DATE = 2012-06-11 # # UPDATED # # CODE, A0500_SI, A1000_SI, A5000_SI, A010K_SI, A050K_SI, A100K_SI 3622572811N, 6L, 6U, 6U, 6U, 7, 7 3622572813N, 6L, 6U, 7, 7, 7, 7 (以下省略)

4. 改訂履歴

2013年12月	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2014年12月	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2016年7月	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2017年4月	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2018年6月	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2021年3月	ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。

条件付超過確率地図データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、条件付超過確率地図データを記述するファイルの規約を示すものである。条件付超過確率地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

条件付超過確率地図データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
G-[バージョンコード]-[断層コード]-MAP-CASE1.csv
```

ただし、「南海トラフ沿いで発生する大地震」（2020年版以降）のファイルは以下のファイル名とする。

```
G-[バージョンコード]-ANNKI-[発生パターンコード]-MAP-CASE1.csv
```

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(2) 断層コード

断層コード規約を参照のこと。

(3) 発生パターンコード

発生パターンコードは発生パターンを一意に定めるコードとなっており、AN001～AN177である。

3. データ記述規約

条件付超過確率地図データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、250m メッシュコードに対応する地図データを記述するブロックである。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%11c	250m メッシュコード
02	AVE_SI	%7.5e	地表の計測震度（平均値）
03	I45_PS	%7.5e	震度 5 弱以上となる確率
04	I50_PS	%7.5e	震度 5 強以上となる確率
05	I55_PS	%7.5e	震度 6 弱以上となる確率
06	I60_PS	%7.5e	震度 6 強以上となる確率

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
VER. = 1.0 # # DATE = 2009-01-01 # # UPDATED # # CODE, AVE_SI, I45_PS, I50_PS, I55_PS, I60_PS 6443145414N, 4. 34768e+00, 3. 62475e-01, 6. 07883e-02, 1. 30901e-03, 0. 00000e+00 6443145421N, 4. 34760e+00, 3. 62409e-01, 6. 07668e-02, 1. 30756e-03, 0. 00000e+00 (以下省略)

4. 改訂履歴

- 2010 年 5 月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
2021 年 6 月 ファイル命名規約に「南海トラフ沿いで発生する大地震」（2020 年版以降）の記述を追加。

想定地震地図データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、想定地震地図データを記述するファイルの規約を示すものである。想定地震地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

想定地震地図データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

S-[バージョンコード]-[断層コード]-MAP-[ケースコード].csv

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(2) 断層コード

「断層コード規約」を参照のこと。

(3) ケースコード

CASE[N]の形式で記述する。Nは1から始まる整数とする。

3. データ記述規約

想定地震地図データは“#”で始まる複数行のコメントと解析範囲情報ブロック、データブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、解析範囲情報ブロック、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) 解析範囲情報ブロック

解析範囲情報ブロックは“# AREA”で始まり、複数行の解析範囲の緯度経度を記述する。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 解析範囲情報ブロック

列番号	列名	書式	説明
01	JLON	%11.7f	座標経度（日本測地系）
02	JLAT	%11.7f	座標緯度（日本測地系）
03	WLON	%11.7f	座標経度（世界測地系）
04	WLAT	%11.7f	座標緯度（世界測地系）

(5) データブロック

データブロックは、250m メッシュコードに対応する地図データを記述するブロックである。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%10-11c	250m メッシュコード
02	BV	%.5f	詳細法工学的基盤における最大速度 (cm/s)
03	BI	%.5f	詳細法工学的基盤における計測震度
04	EB	%.5f	詳細法工学的基盤の S 波速度 (m/s)
05	AMP	%.5f	震度増分
06	SI	%.5f	地表における計測震度

(6) データ記述例

データ記述例を表 3-3 に示す。

表 3-3 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2009-03-15 #	コメント行

データ記述例	説明
<pre># AREA # JLON, JLAT, WLON, WLAT 143. 9265625, 43. 1010417, 143. 9226515, 43. 1035784 143. 9265625, 44. 4739583, 143. 9224953, 44. 4763023 145. 6984375, 44. 4739583, 145. 6942125, 44. 4763685 145. 6984375, 43. 1010417, 145. 6943068, 43. 1036130</pre>	<p>解析範囲情報ブロック</p>
<pre># DATA # CODE, BV, BI, EB, AMP, SI 6443572411N, 2. 22587, 600. 00000, 3. 22496, -0. 06017, 3. 16479 6443572412N, 2. 22587, 600. 00000, 3. 22496, -0. 06017, 3. 16479 6443572413N, 2. 22587, 600. 00000, 3. 22496, -0. 06017, 3. 16479 (以下省略)</pre>	<p>データブロック</p>

4. 改訂履歴

- 2010年2月 データ記述例の修正
- 2010年5月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。

想定地震断層座標データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、想定地震断層座標データを記述するファイルの規約を示すものである。想定地震断層座標データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

想定地震断層座標データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

S-[バージョンコード]-[断層コード]-FAULT-[ケースコード].csv

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(2) 断層コード

「断層コード規約」を参照のこと。

(3) ケースコード

CASE[N]の形式で記述する。Nは1から始まる整数とする。

3. データ記述規約

想定地震断層座標データは“#”で始まる複数行のコメントと断層トレース情報ブロック、断層面情報ブロック、アスペリティ面情報ブロック、破壊開始点情報ブロック、及びデータブロックから構成されるCSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴、及び評価基準日を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、断層トレース情報ブロック、断層面情報ブロック、アスペリティ面情報ブロック、破壊開始点情報ブロック、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) 断層トレース情報ブロック

断層トレース情報ブロックは“# FTL”で始まり、断層線を形成する両端 2 点の緯度、経度、深度を記述する。断層線が複数設定されている場合は、“# FTL[N]” (N は 1 から始まる整数) とし、断層トレース情報ブロックを連続して記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 断層トレース情報ブロック

列番号	列名	書式	説明
01	JLON	%11.7f	座標経度 (日本測地系)
02	JLAT	%11.7f	座標緯度 (日本測地系)
03	WLON	%11.7f	座標経度 (世界測地系)
04	WLAT	%11.7f	座標緯度 (世界測地系)
05	DEP	%.4f	深度 (GL-m)※

※ 断層トレースは地表の断層線を表すため、深度 (GL-m)=0m としている。

注) 海溝型地震の場合は地表トレースが存在しないため、全て“NaN”を記述する。

(5) 断層面情報ブロック

断層面情報ブロックは“# FLT”で始まり、断層面を形成する 4 個の頂点座標を記述する。1 つのケースに断層面が複数設定されている場合は、“# FLT[N]” (N は 1 から始まる整数) とし、断層面情報ブロックを連続して記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-2 に示す。

表 3-2 断層面情報ブロック

列番号	列名	書式	説明
01	JLON	%11.7f	座標経度 (日本測地系)
02	JLAT	%11.7f	座標緯度 (日本測地系)
03	WLON	%11.7f	座標経度 (世界測地系)
04	WLAT	%11.7f	座標緯度 (世界測地系)
05	DEP	%.4f	深度 (GL-m)

※ 断層トレース情報ブロックと断層面情報ブロックは必ず同数となる。

(6) アスペリティ面情報ブロック

アスペリティ面情報ブロックは“# ASP”で始まり、アスペリティ面を形成する 4 個の頂点座標を記述する。アスペリティ面が複数設定されている場合は、“# ASP[N]” (N は 1 から始まるアスペリティ番号) とし、アスペリティ面情報ブロックを連続して記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-3 に示す。

表 3-3 アスペリティ面情報ブロック

列番号	列名	書式	説明
01	JLON	%11.7f	座標経度（日本測地系）
02	JLAT	%11.7f	座標緯度（日本測地系）
03	WLON	%11.7f	座標経度（世界測地系）
04	WLAT	%11.7f	座標緯度（世界測地系）
05	DEP	%.4f	深度(GL-m)

(7) 破壊開始点情報ブロック

破壊開始点情報ブロックは“#DES”で始まり、破壊開始点座標を記述する。複数の断層面が存在し、破壊開始点が複数ある場合は、“#DES[N]”（Nは1から始まる整数）とし、破壊開始点情報ブロックを連続して記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-4 に示す。

表 3-4 破壊開始点情報ブロック

列番号	列名	書式	説明
01	JLON	%11.7f	座標経度（日本測地系）
02	JLAT	%11.7f	座標緯度（日本測地系）
03	WLON	%11.7f	座標経度（世界測地系）
04	WLAT	%11.7f	座標緯度（世界測地系）
05	DEP	%.4f	深度(GL-m)

(8) データブロック

データブロックは、要素断層の中心座標及びアスペリティ番号を記述するブロックである。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-5 に示す。

表 3-5 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	ELM	%d	要素断層番号
02	JLON	%9.5f	要素断層中心座標経度（日本測地系）
03	JLAT	%9.5f	要素断層中心座標緯度（日本測地系）
04	WLOT	%9.5f	要素断層中心座標経度（世界測地系）
05	WLAT	%9.5f	要素断層中心座標緯度（世界測地系）
06	DEP	%9.4f	要素断層中心深さ(GL-m)
07	ASPN	%d	アスペリティ番号（0は背景領域）

※ 列番号 07 の ASPN はアスペリティ面情報ブロックのアスペリティ番号と対応する。

(9) データ記述例

データ記述例を表 3-6 に示す。

表 3-6 データ記述例

データ記述例	説明
# # VER. = 1.0 # DATE = 2009-03-15 #	コメント行
# FTL # JLON, JLAT, WLON, WLAT, DEP 144. 70210, 43. 53541, 144. 69809, 43. 53791, 0. 0000 145. 10998, 43. 94384, 145. 10592, 43. 94629, 0. 0000	断層トレース情報ブロック
# FLT # JLON, JLAT, WLON, WLAT, DEP 144. 67202, 43. 55131, 144. 66802, 43. 55381, 3000. 0000 145. 07990, 43. 95973, 145. 07585, 43. 96219, 3000. 0000 144. 95230, 44. 02718, 144. 94826, 44. 02962, 15727. 9221 144. 54443, 43. 61875, 144. 54043, 43. 62124, 15727. 9221	断層面情報ブロック
# ASP1 # JLON, JLAT, WLON, WLAT, DEP 144. 71611, 43. 61715, 144. 71211, 43. 61964, 4414. 2222 144. 83265, 43. 73384, 144. 82863, 43. 73632, 4414. 2222 144. 74759, 43. 77880, 144. 74357, 43. 78127, 12899. 5556 144. 63105, 43. 66211, 144. 62705, 43. 66459, 12899. 5556	アスペリティ面情報ブロック
# ASP2 # JLON, JLAT, WLON, WLAT, DEP 144. 90588, 43. 82885, 144. 90184, 43. 83132, 5828. 4444 144. 99328, 43. 91637, 144. 98923, 43. 91883, 5828. 4444 144. 93657, 43. 94635, 144. 93253, 43. 94881, 11485. 3333 144. 84917, 43. 85883, 144. 84514, 43. 86129, 11485. 3333	アスペリティ面情報ブロック
# DES # JLON, JLAT, WLON, WLAT, DEP 144. 68932, 43. 72046, 144. 68531, 43. 72293, 12899. 5556	破壊開始点情報ブロック
# DATA # ELM, JLON, JLAT, WLON, WLAT, DEP, ASPN 1, 144. 67222, 43. 56235, 144. 66821, 43. 56485, 3707. 1068, 0 2, 144. 68679, 43. 57694, 144. 68278, 43. 57943, 3707. 1068, 0	データブロック

データ記述例	説明
(以下省略)	

4. 改訂履歴

- 2009年12月 断層トレース、断層面、アスペリティ面定義の明確化
アスペリティ番号の導入
- 2010年5月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。

想定地震断層パラメータ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、想定地震断層パラメータを記述するファイルの規約を示すものである。想定地震断層パラメータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

想定地震断層パラメータ記述ファイルは以下のファイル名とする。

S-[バージョンコード]-[断層コード]-PRM_[ケースコード].pdf

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(2) 断層コード

「断層コード規約」を参照のこと。

(3) ケースコード

CASE[N]の形式で記述する。複数のケースを1ファイルで記述している場合は、CASE[M_N]の形式で記述する。ケースコードが「CASE1_2」の場合、CASE1～CASE2のパラメータを記述する。

3. データ記述規約

詳細は各断層のパラメータ記述ファイルを参照のこと。

4. 共通断層パラメータ

全国共通で設定している断層パラメータを表 4-1 に示す。

表 4-1 全国共通で設定している断層パラメータ

断層パラメータ	設定方法	設定値
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3400 m/s
剛性率 μ	$\mu = \rho\beta^2$	3.12E+10 N/m ²
破壊伝搬速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller (1976)より)	2400 m/s

5. 参考文献

- (1) Geller, R. J. (1976): Scaling relations for earthquake source parameters and magnitudes, Bull. Seism. Soc. Am., 66, 1501-1523.

6. 改訂履歴

- 2010年5月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
- 2015年5月 共通断層パラメータの記述を追加。

被災人口統計データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、被災人口(震度曝露人口)統計データを記述するファイル規約を示すものである。震度曝露人口統計データは2章~3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

震度曝露人口統計データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

E-[年度コード]-STAT-[人口種別コード]-[想定地震コード].csv

断層・ケース毎に分割したファイルの場合は、以下のファイル名とする。

E-[年度コード]-STAT-[人口種別コード]-[想定地震コード]-[バージョン]-[断層コード]-[ケースコード].csv

(1) 年度コード

FYNNNNの形式で記述する。NNNNは、国勢調査の調査年度(西暦)を示す。

(2) 人口種別コード

人口種別コードの説明を表2-1に示す。

表 2-1 人口種別コード

人口種別コード	説明
ALL_DT_A	昼間人口
ALL_NT_A	夜間人口

(3) 想定地震コード

想定地震コードの説明を表2-2に示す。

表 2-2 想定地震コード

想定地震コード	説明
C	条件付き超過確率：計測震度期待値
S	震源断層を特定した地震動予測地図：計測震度

(4) バージョン

想定地震のバージョンをV[N]の形式で記述する。Nは1から始まる整数とする。

(5) 断層コード

「断層コード規約」を参照のこと。

(6) ケースコード

CASE[N]の形式で記述する。Nは1から始まる整数とする。

3. データ記述規約

震度曝露人口統計データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y

の形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD

の形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED

YYYY-MM-DD 更新内容 1

YYYY-MM-DD 更新内容 2

...

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、各行政区域内の震度曝露人口及び総人口を記述するブロックである。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	LTECODE	%s	断層コード
02	VERSION	%s	想定地震のバージョン値 N
03	CASE	%s	ケースコード
04	AREACODE	%05d	行政区コード※
05	AREANAME	%s	行政区の名称
06	POP	%d	行政区域内に含まれる総人口(人)
07	I45_PEX	%d	行政区域内で震度 5 弱以上の揺れに曝される人数

08	I50_PEX	%d	行政区域内で震度 5 強以上の揺れに曝される人数
09	I55_PEX	%d	行政区域内で震度 6 弱以上の揺れに曝される人数
10	I60_PEX	%d	行政区域内で震度 6 強以上の揺れに曝される人数

※都道府県コード（JISX0401）2桁、市区町村コード（JISX0402）3桁からなる5桁の数字。

注）メッシュ細分化処理のため、震度曝露人口及び総人口は総務省・自治体等から公表されている値と一致しないことがある。

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
<pre> # # VER. = 1.0 # # DATE = 2010-04-01 # # UPDATED # # LTECODE, VERSION, CASE, AREACODE, AREANAME, POP, I45_PEX, I50_PEX, I55_PEX, I60_PEX AIBRK, 1, CASE1, 08203, 茨城県 土浦市, 154160, 35978, 0, 0, 0 AIBRK, 1, CASE1, 08205, 茨城県 石岡市, 74013, 505, 0, 0, 0 (以下省略) </pre>

表層地盤データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、地震動予測地図における表層地盤データを記述するファイルの規約を示すものである。表層地盤データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

表層地盤データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

```
Z-[バージョンコード]-JAPAN-AMP-VS400_M250.csv
```

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

```
Z-[バージョンコード]-JAPAN-AMP-VS400_M250-[1次メッシュコード].csv
```

(1) バージョンコード

バージョンコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 バージョンコード

バージョンコード	概要
V3	2014年の「全国地震動予測地図」で使用した、250mメッシュ単位データ
V4	2020年の「全国地震動予測地図」で使用した、250mメッシュ単位データ

(2) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410（地域メッシュコード）及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002（地域メッシュコード追補 有効1）に準ずる。

3. データ記述規約

表層地盤データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成されるGSVファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、及び更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Yの形式で記述する。Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DDの形式で記述する。YYYYは西暦、MMは2桁の月、DDは2桁の日を示す。

(3) 更新履歴

UPDATED
 # YYYY-MM-DD 更新内容 1
 # YYYY-MM-DD 更新内容 2
 ...

の形式で記述する。

(4) データブロック

データブロックは、250m メッシュコードに対応する表層地盤データを記述するブロックである。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%10c	250m メッシュコード(世界測地系)
02	JCODE	%2d	微地形分類コード
03	AVS	%5.1f	表層 30m の平均 S 波速度 (m/s)
04	ARV	%9.4f	工学的基盤 (Vs=400m/s) から地表に至る最大速度の増幅率
05*	AVS_EB	%5.1f	詳細法工学的基盤面から深さ 30m の平均 S 波速度 (m/s)。値が定義されていないメッシュは'-'と記載する。
06*	AVS_REF	%d	表層 30m の平均 S 波速度の出典分類番号 (表 3-5 参照)

※バージョンコード V3 ではこの列は記載しない。

1) 微地形分類コード

微地形分類コードの出典を表 3-2 に示す。

表 3-2 微地形分類出典

バージョンコード	出典
V3	若松・松岡(2013)もしくはWakamatsu and Matsuoka(2013)
V4	若松・松岡(2020)

微地形分類コードの説明を表 3-3、表 3-4 に示す。

表 3-3 微地形分類 (V3)

微地形分類コード	微地形区分
1	山地
2	山麓地
3	丘陵
4	火山地
5	火山山麓地

6	火山性丘陵
7	岩石台地
8	砂礫質台地
9	口一ム台地
10	谷底低地
11	扇状地
12	自然堤防
13	後背湿地
14	旧河道
15	三角州・海岸低地
16	砂州・砂礫州
17	砂丘
18	砂州・砂丘間低地
19	干拓地
20	埋立地
21	磯・岩礁
22	河原
23	河道
24	湖沼

表 3-4 微地形分類 (V4)

微地形分類コード	微地形区分
0	沿岸海域
1	山地
2	山麓地
3	丘陵
4	火山地
5	火山山麓地
6	火山性丘陵
7	岩石台地
8	砂礫質台地
9	火山灰台地
10	谷底低地
11	扇状地
12	自然堤防
13	後背湿地
14	旧河道・旧池沼

15	三角州・海岸低地
16	砂州・砂礫州
17	砂丘
18	砂丘・砂州間低地
19	干拓地
20	埋立地
21	磯・岩礁
22	河原
23	河道
24	湖沼

2) 表層 30m の平均 S 波速度

表層 30m の平均 S 波速度の出典を表 3-5 に示す。

表 3-5 表層 30m の平均 S 波速度出典

バージョンコード	出典
V3	松岡・若松(2008)
V4	列 AVS_REF が 0 の場合：若松・松岡(2020)
	列 AVS_REF が 1 の場合：Senna et al. (2013) および Senna et al. (2019)

3) 工学的基盤 ($V_s=400\text{m/s}$) から地表に至る最大速度の増幅率

工学的基盤 ($V_s=400\text{m/s}$) から地表に至る最大速度の増幅率の出典を表 3-6 に示す。

表 3-6 工学的基盤 ($V_s=400\text{m/s}$) から地表に至る最大速度の増幅率出典

バージョンコード	出典
V3	藤本・翠川(2006)
V4	

4) 詳細法工学的基盤面から深さ 30m の平均 S 波速度

詳細法工学的基盤面から深さ 30m の平均 S 波速度の出典を表 3-7 に示す。

表 3-7 詳細法工学的基盤面から深さ 30m の平均 S 波速度出典

バージョンコード	出典
V4	Senna et al. (2013) および Senna et al. (2019)

(5) データ記述例

データ記述例を表 3-8、表 3-9 に示す。

表 3-8 データ記述例 (V3)

データ記述例
<pre># # VER. = 1.0 # DATE = 2014-12-08 # # UPDATED # # CODE, JCODE, AVS, ARV 5640000011, 1, 641.3, 0.6689 (以下省略)</pre>

表 3-9 データ記述例 (V4)

データ記述例
<pre># # VER. = 1.0 # DATE = 2020-07-14 # # UPDATED # # CODE, JCODE, AVS, ARV, AVS_EB, AVS_REF 5640000011, 1, 641.3, 0.6689, -, 0 (以下省略)</pre>

4. 参考文献

- (1) 若松加寿江・松岡昌志(2013) : 全国統一基準による地形・地盤分類 250m メッシュマップの構築とその利用, 地震工学会誌 No. 18, pp. 35-38.
- (2) Wakamatsu, K. and Matsuoka, M. (2013): " Nationwide 7.5-Arc-Second Japan Engineering Geomorphologic Classification Map and Vs30 Zoning", Journal of Disaster Research Vol.8 No. 5, pp. 904-911.
- (3) 若松加寿江・松岡昌志(2020) : 地形・地盤分類 250m メッシュマップの更新, 日本地震工学会誌, No. 40, pp. 24-27.
- (4) 松岡昌志・若松加寿江(2008) : 地形・地盤分類 250m メッシュマップ全国版に基づく地盤のゆれやすさデータ, 産業技術総合研究所, 知的財産管理番号 H20PRO-936.
- (5) 藤本一雄・翠川三郎(2006) : 近接観測点ペアの強震観測記録に基づく地盤増幅度と地盤の平均 S 波速度の関係, 日本地震工学会論文集, Vol. 6, No. 1, pp. 11-22.

- (6) Senna, S., Maeda, T., Inagaki, Y., Suzuki, H., Matsuyama, H. and Fujiwara, H. (2013): “Modeling of the subsurface structure from the seismic bedrock to the ground surface for a broadband strong motion evaluation”, J. Disaster Res., Vol.8, No.5, pp.889-903.
- (7) Senna, S., Wakai, A., Yatagai, A., Jin, K., Matsuyama, H., Suzuki, H. and Fujiwara, H. (2019): “Modeling of the subsurface structure from the seismic bedrock to the ground surface for a broadband strong motion evaluation in Japan”, Proc. of 7th Int. Conf. of Earthquake and Geotechnical Engineering, Malta.

5. 改訂履歴

- 2014年3月 旧データのバージョンコードV1に関する記述を削除。
- 2014年12月 旧データのバージョンコードV2に関する記述を削除。増幅率の書式を変更。
- 2021年3月 バージョンコードV4に関する記述を追加。

深部地盤構造モデルデータ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、深部地盤構造モデルデータを記述するファイルの規約を示すものである。深部地盤構造モデルデータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

深部地盤構造モデルデータ記述ファイルは以下のファイル名とする。

D-[バージョンコード]-STRUCT_DEEP-[ファイル種別コード].csv

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

D-[バージョンコード]-STRUCT_DEEP-[ファイル種別コード]-[1次メッシュコード].csv

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。バージョンコードの説明を示す。

表 2-1 バージョンコード

バージョンコード	概要	出典
V1	2010年版以前の震源断層を特定した地震動予測地図の計算に使用したデータ	藤原・他(2009)
V2	2011年版以後の震源断層を特定した地震動予測地図の計算に使用したデータ	藤原・他(2012)
V3.2	2020年版以降の震源断層を特定した地震動予測地図の計算に使用したデータ	地震調査研究推進本部(2021)
V4	先名・他(2023)の第5章で作成されたデータ	先名・他(2023)

(2) ファイル種別コード

本ファイル規約で扱うファイル種別コードの説明を示す。

表 2-2 ファイル種別コード

ファイル種別コード	説明
LYRD	深さ
LYRE	標高
PYS	物性値

(3) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410(地域メッシュコード)及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002(地域メッシュコード追補 有効1)に準ずる。

3. データ記述規約

深部地盤構造モデルデータは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。コメント行にはファイルバージョン、作成日、更新履歴を記録する。以下にファイルバージョン、作成日、更新履歴、及びデータブロックの記述規約を示す。

(1) ファイルバージョン

VER. = X.Y の形式で記述する。X はメジャーバージョン、Y はマイナーバージョンを示す。

(2) 作成日

DATE = YYYY-MM-DD の形式で記述する。YYYY は西暦、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日を示す。

(3) 更新履歴

```
# UPDATED
# YYYY-MM-DD 更新内容 1
# YYYY-MM-DD 更新内容 2
...
の形式で記述する。
```

(4) データブロック

各属性のデータブロック記述規約を以下に示す。

1) 深さ

3 次メッシュコードに対応する深さのデータを記述する。各データは”,” で区切られる。ブロック内記述方法をバージョンコード別に表 3-1、表 3-2、表 3-3 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

a) V1 および V2

表 3-1 データブロック (深さ)

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%9c	3 次メッシュコード (日本測地系)
02	D0	%d	0 固定
03	D1	%d	第 1 層下面深さ (m)
:	:	:	:
30	D28	%d	第 28 層下面深さ (m)
31	D29	%d	地震基盤面深さ (m) Vs=2700 (m/s)
32	D30	%d	地震基盤面深さ (m) Vs=3100 (m/s)
33	D31	%d	地震基盤面深さ (m) Vs=3200 (m/s)
34	D32	%d	地震基盤面深さ (m) Vs=3300 (m/s)

b) V3.2

表 3-2 データブロック (深さ)

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%8c	3次メッシュコード (世界測地系)
02	S0	%.1f	0 固定
03	D0	%.1f	第0層下面深さ (m)
04	D1	%.1f	第1層下面深さ (m)
:	:	:	:
31	D28	%.1f	第28層下面深さ (m)
32	D29	%.1f	第29層下面 (地震基盤面) 深さ (m)
33	D30	%.1f	第30層下面深さ (m)

c) V4

表 3-3 データブロック (深さ)

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%8c	3次メッシュコード (世界測地系)
02	S0	%.1f	0 固定
03	D0	%.1f	第0層下面深さ (m)
04	D1	%.1f	第1層下面深さ (m)
:	:	:	:
31	D28	%.1f	第28層下面深さ (m)
32	D29	%.1f	第29層下面 (地震基盤面) 深さ (m)
33	D30	%.1f	第30層下面深さ (m)
34	D31	%.1f	第31層下面深さ (m)

2) 標高

3次メッシュコードに対応する標高のデータを記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法をバージョンコード別に表 3-4、表 3-5、表 3-6 に示す。各データの書式は、C言語の printf 書式指定子で表す。

a) V1 および V2

表 3-4 データブロック (標高)

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%9c	3次メッシュコード (日本測地系)
02	E0	%d	地表標高 (m)
03	E1	%d	第1層下面標高 (m)
:	:	:	:

30	E28	%d	第 28 層下面標高 (m)
31	E29	%d	地震基盤面標高 (m) Vs=2700 (m/s)
32	E30	%d	地震基盤面標高 (m) Vs=3100 (m/s)
33	E31	%d	地震基盤面標高 (m) Vs=3200 (m/s)
34	E32	%d	地震基盤面標高 (m) Vs=3300 (m/s)

b) V3.2

表 3-5 データブロック (標高)

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%8c	3 次メッシュコード (世界測地系)
02	S0	%.1f	地表標高
03	E0	%.1f	第 0 層下面標高 (m)
04	E1	%.1f	第 1 層下面標高 (m)
:	:	:	:
31	E28	%.1f	第 28 層下面標高 (m)
32	E29	%.1f	第 29 層下面 (地震基盤面) 標高 (m)
33	E30	%.1f	第 30 層下面標高 (m)

c) V4

表 3-6 データブロック (標高)

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%8c	3 次メッシュコード (世界測地系)
02	S0	%.1f	地表標高
03	E0	%.1f	第 0 層下面標高 (m)
04	E1	%.1f	第 1 層下面標高 (m)
:	:	:	:
31	E28	%.1f	第 28 層下面標高 (m)
32	E29	%.1f	第 29 層下面 (地震基盤面) 標高 (m)
33	E30	%.1f	第 30 層下面標高 (m)
34	E31	%.1f	第 31 層下面標高 (m)

3) 物性値

層番号に対応する物性値を記述する。各データは”,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-7 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-7 データブロック (物性値)

列番号	列名	書式	説明
01	STN	%d	層番号
02	SVP	%d	P 波速度 (m/s)
03	SVS	%d	S 波速度 (m/s)
04	SRO	%d	密度 (kg/m ³)
05	SQP	%d	Qp 値※
06	SQS	%d	Qs 値※

※ Q 値 (Q_p, Q_s) は、差分法の計算時 1Hz における値。

(5) データ記述例

深さ・標高のデータ記述例を表 3-8 に、物性値のデータ記述例を表 3-9 に示す。

表 3-8 深さ・標高データ記述例

データ記述例
<pre># # VER. = 3.2 # DATE = 2021-02-03 # # UPDATED # # CODE, S0, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, E10, E11, E12, E13, E14, E15, E16, E17, E18, E19, E20, E21, E22, E23, E24, E25, E26, E27, E28, E29, E30 34227762, -5491.5, -5491.5, -5491.5, -5491.5, -5491.5, -5491.5, -5491.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5591.5, -5791.5, -5791.5, -5791.5, -6491.5, -6491.5, -6491.5, -6491.5, - 6491.5, -6491.5, -6491.5, -7491.5, -7491.5, -7491.5, -7491.5, -7491.5, -7491.5 (以下省略)</pre>

表 3-9 物性値データ記述例

データ記述例
<pre># # VER. = 3.2 # DATE = 2021-02-03 # # UPDATED # # PYS</pre>

データ記述例
STN, SVP, SVS, SRO, SQP, SQS
1, 1600, 350, 1850, 60, 60
2, 1600, 400, 1850, 60, 60
3, 1700, 450, 1900, 60, 60
4, 1800, 500, 1900, 60, 60
5, 1800, 550, 1900, 60, 60
6, 2000, 600, 1900, 100, 100
7, 2000, 650, 1950, 100, 100
8, 2100, 700, 2000, 100, 100
9, 2100, 750, 2000, 100, 100
10, 2200, 800, 2000, 100, 100
(以下省略)

4. 参考文献

- (1) 藤原広行・河合伸一・青井真・森川信之・先名重樹・工藤暢章・大井昌弘・はお憲生・早川讓・遠山信彦・松山尚典・岩本鋼司・鈴木晴彦・劉瑛（2009）：強震動評価のための全国深部地盤構造モデル作成手法の検討，防災科学技術研究所研究資料 第 337 号
- (2) 藤原広行・河合伸一・青井真・森川信之・先名重樹・東宏樹・大井昌弘・はお憲生・長谷川信介・前田宜浩・岩城麻子・若松加寿江・井元政二郎・奥村俊彦・松山尚典・成田章（2012）：東日本大震災を踏まえた地震ハザード評価の改良に向けた検討，防災科学技術研究所研究資料 第 379 号
- (3) 地震調査研究推進本部（2021）：「関東地方の浅部・深部統合地盤構造モデル（2021年版）」，
https://www.jishin.go.jp/evaluation/strong_motion/underground_model/integration_model_kanto_2021/（2021年3月26日公表）
- (4) 先名重樹・藤原広行・前田宜浩・森川信之・岩城麻子・河合伸一・谷田貝淳・佐藤将・鈴木晴彦・稲垣賢亮・松山尚典（2023）：強震動評価のための浅部・深部統合地盤構造モデルの構築，防災科学技術研究所研究資料 第 498 号

地震コード規約

1. 概要

本書は、全国地震動予測地図において考慮した地震を一意に定める地震コードの規約を示すものである。地震コードはファイル名やデータファイル内で利用される。

2. 地震コード

地震コードは、ハザードカーブ及び確率論的地震動予測地図データを識別するコードである。地震コード内に含まれる”_A”は震源断層を特定した地震、”_B”は震源断層を領域で特定できる地震、”_C”は震源断層を予め特定しにくい地震を表す。地震コードを表 2-1 に示す。

表 2-1 地震コード

地震コード	地震名
TTL_M TTL	全ての地震
LND_A98F	主要活断層帯に発生する固有地震
LND_AGR1	主要活断層帯以外の活断層に発生する地震
PLE_ANNKI	南海トラフの地震（～2019年版） 南海トラフ沿いで発生する大地震（2020年版～）
PLE_ATHOP	東北地方太平洋沖型地震
PLE_AJTHK	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）
PLE_AAEIN	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震
PLE_AMYGI	宮城県沖のプレート間巨大地震
PSE_BJPTN	日本海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）
PSE_BJOUT	日本海溝の海溝軸外側の地震
PLE_AMIYA	宮城県沖地震及び三陸沖南部海溝寄りの地震
PLE_AMYAS	宮城県沖地震（繰り返し発生する地震）
PSE_BMYAS	宮城県沖地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PLE_ASNNK	三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震）
PSE_BSNNK	三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PLE_ASNKT	三陸沖北部のプレート間大地震（繰り返し発生する地震）
PSE_BTNMI	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート間大地震（津波地震）
PSE_BNRML	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート内大地震（正断層型）
PSE_BSNKT	三陸沖北部のプレート間大地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PSE_BFKSM	福島県沖の地震
PSE_BIBRK	茨城県沖の地震（繰り返し発生する地震以外の地震）
PSE_AIBRK	茨城県沖の地震（繰り返し発生する地震）
PLE_ATKNM	十勝沖・根室沖の地震

地震コード	地震名
PLE_ASKTN	色丹島沖の地震
PLE_AETRF	択捉島沖の地震
PSE_BTKNM	十勝沖・根室沖のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BSKET	色丹島沖・択捉島沖のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BITRS	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや浅い地震
PSE_BITRD	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや深い地震
LND_BHKNW	北海道北西沖の地震
LND_AHKDW	北海道西方沖の地震
LND_AHKSU	北海道南西沖の地震
LND_AAOMW	青森県西方沖の地震
LND_BAKIT	秋田県沖の地震
LND_AYMGA	山形県沖の地震
LND_ANIGT	新潟県北部沖の地震
LND_BSDGN	佐渡島北方沖の地震
PSE_BAKND	安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震
PSE_BHGNL	日向灘のプレート間地震
PSE_BHGNS	日向灘のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BYNGN	与那国島周辺の地震
PLE_AKNT0	大正型関東地震
PSE_BKNT0	相模トラフ沿いの地震:その他の南関東で発生する M7 程度の地震
PLE_ASAMI	相模トラフ沿いの M8 クラスの地震
PSE_CPCF	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPC3	太平洋プレートのプレート間の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPC4	太平洋プレートのプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_COUT	海溝軸より沖合の地震（アウターライズ地震）（～2019 年版） 太平洋プレートの海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）（2020 年版～）
PSE_CPHL	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPH3	フィリピン海プレートのプレート間の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPH4	フィリピン海プレートのプレート内の震源を予め特定しにくい地震
PSE_CPH0	フィリピン海プレートの海溝軸より沖合の地震（アウターライズ）
LND_CGR5	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震
PSE_CURA	浦河沖の震源を予め特定しにくい地震
LND_CJPS	日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CIZU	伊豆諸島以南の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CNAN	南西諸島付近の震源断層を予め特定しにくい地震
LND_CURA	浦河沖の震源断層を予め特定しにくい地震

地震コード	地震名
LND_CYNG	与那国島周辺の震源断層を予め特定しにくい地震
PLE_MTTL	地震カテゴリ1の地震（～2019年版） 海溝型巨大地震（2020年版～）
PSE_MTTL	地震カテゴリ2の地震（～2019年版） 海溝型震源不特定地震（2020年版～）
LND_MTTL	地震カテゴリ3の地震（～2019年版） 活断層などの浅い地震（2020年版～）
PPE_MTTL	地震カテゴリ1+2の地震（～2019年版） 海溝型地震（2020年版～）
PLE_ATKCH	十勝沖のプレート間巨大地震
PLE_ANMRO	根室沖のプレート間巨大地震
PSE_BCHTN	千島海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）
PLE_ACHSM	千島海溝沿いの超巨大地震

3. 改訂履歴

2010年9月	J-SHIS 報告書の記述と一致していなかった地震名を一部修正。
2011年5月	地震名の説明を一部修正。
2012年12月	地震コードの追加及び地震名の説明を一部修正。
2013年12月	地震コードの追加及び地震名の説明を一部修正。
2014年12月	地震コードの追加及び地震名の説明を一部修正。
2018年6月	地震コードを追加。
2021年3月	地震コードの追加及び地震名の説明を一部修正。
2023年12月	地震コードの追加。

断層コード規約

1. 概要

本書は、全国地震動予測地図において考慮した震源断層を一意に定める断層コードの規約を示すものである。断層コードはファイル名やデータファイル内で利用される。

2. 断層コード

断層コードは主要活断層帯で発生する固有地震、海溝型地震、その他の活断層で発生する地震の震源断層に関して定義する。

(1) 主要活断層帯

主要活断層帯の断層コードを表 2-1 に示す。

表 2-1 主要活断層帯断層コード

断層コード	断層名
F000101	標津断層帯
F000201	十勝平野断層帯主部
F000202	光地園断層
F000301	富良野断層帯西部
F000302	富良野断層帯東部
F000401	増毛山地東縁断層帯
F000402	沼田一砂川付近の断層帯
F000501	当別断層
F000601	石狩低地東縁断層帯主部
F000602	石狩低地東縁断層帯南部
F000701	黒松内低地断層帯
F000801	函館平野西縁断層帯
F000901	青森湾西岸断層帯
F001001	津軽山地西縁断層帯北部
F001002	津軽山地西縁断層帯南部
F001101	折爪断層
F001201	能代断層帯
F001301	北上低地西縁断層帯
F001401	雫石盆地西縁断層帯
F001402	真昼山地東縁断層帯北部
F001403	真昼山地東縁断層帯南部
F001501	横手盆地東縁断層帯北部

断層コード	断層名
F001502	横手盆地東縁断層帯南部
F001601	北由利断層
F001701	新庄盆地断層帯（～2011年版） 新庄盆地断層帯東部（2012年版～）
F001702	新庄盆地断層帯西部
F001801	山形盆地断層帯北部
F001802	山形盆地断層帯南部
F001901	庄内平野東縁断層帯（～2009年版） 庄内平野東縁断層帯北部（2010年版～）
F001902	庄内平野東縁断層帯南部
F002001	長町－利府線断層帯
F002101	福島盆地西縁断層帯
F002201	長井盆地西縁断層帯
F002301	双葉断層
F002401	会津盆地西縁断層帯
F002402	会津盆地東縁断層帯
F002501	櫛形山脈断層帯
F002601	月岡断層帯
F002701	長岡平野西縁断層帯
F002901	鴨川低地断層帯
F003001	関谷断層
F003101	関東平野北西縁断層帯主部
F003102	平井－櫛挽断層帯
F003401	立川断層帯
F003501	伊勢原断層
F003601	神縄・国府津－松田断層帯
F003701	三浦半島断層群主部衣笠・北武断層帯
F003702	三浦半島断層群主部武山断層帯
F003703	三浦半島断層群南部
F003801	北伊豆断層帯
F003901	十日町断層帯西部
F003902	十日町断層帯東部
F004001	長野盆地西縁断層帯
F004101	糸魚川－静岡構造線断層帯 北部・中部
F004201	糸魚川－静岡構造線断層帯 南部
F004301	富士川河口断層帯

断層コード	断層名
F004501	木曾山脈西縁断層帯主部北部
F004502	木曾山脈西縁断層帯主部南部
F004503	清内路峠断層帯
F004601	境峠・神谷断層帯主部
F004602	霧訪山－奈良井断層帯
F004701	跡津川断層帯
F004801	高山・大原断層帯国府断層帯
F004802	高山・大原断層帯高山断層帯
F004803	高山・大原断層帯猪之鼻断層帯
F004901	牛首断層帯
F005001	庄川断層帯
F005101	伊那谷断層帯主部
F005102	伊那谷断層帯南東部
F005201	阿寺断層帯主部北部
F005202	阿寺断層帯主部南部
F005203	阿寺断層帯佐見断層帯
F005204	阿寺断層帯白川断層帯
F005301	屏風山・恵那山－猿投山断層帯屏風山断層帯
F005302	赤河断層帯
F005303	恵那山－猿投山北断層帯
F005304	猿投－高浜断層帯
F005305	加木屋断層帯
F005501	邑知瀉断層帯
F005601	砺波平野断層帯西部
F005602	砺波平野断層帯東部
F005603	呉羽山断層帯
F005701	森本・富樫断層帯
F005801	福井平野東縁断層帯主部
F005802	福井平野東縁断層帯西部
F005901	長良川上流断層帯
F006001	温見断層北西部
F006002	温見断層南東部
F006003	濃尾断層帯主部根尾谷断層帯
F006004	濃尾断層帯主部梅原断層帯
F006005	濃尾断層帯主部三田洞断層帯
F006006	揖斐川断層帯

断層コード	断層名
F006007	武儀川断層
F006101	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部北部
F006102	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部中部
F006103	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部南部
F006104	浦底－柳ヶ瀬山断層帯
F006301	野坂断層帯
F006302	集福寺断層
F006401	湖北山地断層帯北西部
F006402	湖北山地断層帯南東部
F006501	琵琶湖西岸断層帯（～2009年版） 琵琶湖西岸断層帯北部（2010年版～）
F006502	琵琶湖西岸断層帯南部
F006701	養老－桑名－四日市断層帯
F006801	鈴鹿東縁断層帯
F006901	鈴鹿西縁断層帯
F007001	頓宮断層
F007101	布引山地東縁断層帯西部
F007102	布引山地東縁断層帯東部
F007201	木津川断層帯
F007301	三方断層帯
F007302	花折断層帯北部
F007303	花折断層帯中南部
F007401	山田断層帯主部
F007402	郷村断層帯
F007501	奈良盆地東縁断層帯
F007601	有馬－高槻断層帯
F007701	生駒断層帯
F007801	上林川断層
F007802	三峠断層
F007803	京都西山断層帯
F007901	六甲・淡路島断層帯主部六甲山地南縁－淡路島東岸区間
F007902	六甲・淡路島断層帯主部淡路島西岸区間
F007903	先山断層帯
F008001	上町断層帯
F008101	中央構造線断層帯金剛山地東縁－和泉山脈南縁（～2011年版） 中央構造線断層帯金剛山地東縁（2012年版～）

断層コード	断層名
F008102	中央構造線断層帯紀淡海峡－鳴門海峡
F008103	中央構造線断層帯讃岐山脈南縁－石鎚山脈北縁東部
F008104	中央構造線断層帯石鎚山脈北縁
F008105	中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部－伊予灘
F008106	中央構造線断層帯和泉山脈南縁
F008201	那岐山断層帯
F008202	山崎断層帯主部北西部
F008203	山崎断層帯主部南東部
F008204	草谷断層
F008401	長尾断層帯
F008701	五日市断層
F008702	己斐－広島西縁断層帯
F008801	岩国断層帯
F009001	菊川断層帯
F009101	西山断層帯
F009201	別府湾－日出生断層帯東部
F009202	別府湾－日出生断層帯西部
F009203	大分平野－由布院断層帯東部
F009204	大分平野－由布院断層帯西部
F009205	野稻岳－万年山断層帯
F009206	崩平山－亀石山断層帯
F009301	布田川・日奈久断層帯北東部
F009311	布田川・日奈久断層帯中部（ケース 1）
F009321	布田川・日奈久断層帯中部（ケース 2）
F00931A	布田川・日奈久断層帯南西部（ケース 1：中部と同時活動）
F00931B	布田川・日奈久断層帯南西部（ケース 1：中部と別に活動）
F009322	布田川・日奈久断層帯南西部（ケース 2）
F009401	水縄断層帯
F009501	雲仙断層群北部
F009502	雲仙断層群南東部
F009503	雲仙断層群南西部北部
F009504	雲仙断層群南西部南部
F009601	出水断層帯
F009701	伊勢湾断層帯主部北部
F009702	伊勢湾断層帯主部南部
F009703	白子－野間断層

断層コード	断層名
F009801	大阪湾断層帯
F009901	サロベツ断層帯
F010101	花輪東断層帯
F010201	高田平野西縁断層帯
F010202	高田平野東縁断層帯
F010302	六日町断層帯南部
F010335	六日町断層帯北部（ケース1）
F010336	六日町断層帯北部（ケース2）
F010401	曾根丘陵断層帯
F010501	魚津断層帯
F010601	周防灘断層群主部
F010602	秋穂沖断層帯
F010603	宇部南方沖断層帯
F010701	安芸灘断層群主部
F010702	広島湾-岩国沖断層帯
F010801	警固断層帯北西部
F010802	警固断層帯南東部
F010901	人吉盆地南縁断層
F011001	宮古島断層帯中部
F011002	宮古島断層帯西部
F012001	小倉東断層 ^{※1}
F012101	福智山断層帯 ^{※1}
F012201	西山断層帯大島沖区間 ^{※1}
F012202	西山断層帯西山区間 ^{※1}
F012203	西山断層帯嘉麻峠区間 ^{※1}
F01220B	西山断層帯（大島沖区間と西山区間が同時に活動） ^{※1}
F01220C	西山断層帯（西山区間と嘉麻峠区間が同時に活動） ^{※1}
F01220A	西山断層帯（全体が同時に活動） ^{※1}
F012301	宇美断層 ^{※1}
F012401	警固断層帯北西部 ^{※1}
F012402	警固断層帯南東部 ^{※1}
F01240A	警固断層帯（全体が同時に活動） ^{※1}
F012501	日向峠-小笠木峠断層帯 ^{※1}
F012601	水縄断層帯 ^{※1}
F012701	佐賀平野北縁断層帯 ^{※1}
F012801	別府湾-日出生断層帯東部 ^{※1}

断層コード	断層名
F012802	別府湾-日出生断層帯西部※ ¹
F012803	大分平野-由布院断層帯東部※ ¹
F012804	大分平野-由布院断層帯西部※ ¹
F012805	野稻岳-万年山断層帯※ ¹
F012806	崩平山-亀石山断層帯※ ¹
F01280A	別府湾-日出生断層帯（全体が同時に活動）※ ¹
F01280B	大分平野-由布院断層帯（全体が同時に活動）※ ¹
F012901	雲仙断層群北部※ ¹
F012902	雲仙断層群南東部※ ¹
F012903	雲仙断層群南西部北部※ ¹
F012904	雲仙断層群南西部南部※ ¹
F01290A	雲仙断層群（南西部北部と南部が同時に活動）※ ¹
F013001	布田川断層帯布田川区間※ ¹
F013002	布田川断層帯宇土区間※ ¹
F013003	布田川断層帯宇土半島北岸区間※ ¹
F013101	日奈久断層帯高野-白旗区間※ ¹
F013102	日奈久断層帯日奈久区間※ ¹
F013103	日奈久断層帯八代海区間※ ¹
F01300C	布田川断層帯（布田川区間と宇土区間が同時に活動）※ ¹
F01300D	布田川断層帯（宇土区間と宇土半島北岸区間が同時に活動）※ ¹
F01300E	布田川断層帯・日奈久断層帯（布田川区間と高野-白旗区間が同時に活動）※ ¹
F01310B	日奈久断層帯（高野-白旗区間と日奈久区間が同時に活動）※ ¹
F01310C	日奈久断層帯（日奈久区間と八代海区間が同時に活動）※ ¹
F01300A	布田川断層帯（全体が同時に活動）※ ¹
F01300F	布田川断層帯・日奈久断層帯（布田川区間と高野-白旗区間と日奈久区間が同時に活動）※ ¹
F01310A	日奈久断層帯（全体が同時に活動）※ ¹
F01300B	布田川断層帯・日奈久断層帯（布田川区間と日奈久断層帯全体が同時に活動）※ ¹
F013201	緑川断層帯※ ¹
F013301	人吉盆地南縁断層※ ¹
F013401	出水断層帯※ ¹
F013501	甑断層帯上甑島北東沖区間※ ¹
F013502	甑断層帯甑区間※ ¹
F013601	市来断層帯市来区間※ ¹

断層コード	断層名
F013602	市来断層帯甑海峡中央区間※ ¹
F013603	市来断層帯吹上浜西方沖区間※ ¹
F013701	日出生断層帯
F013801	万年山一崩平山断層帯
F014121	関谷断層※ ²
F014221	内ノ籠断層※ ²
F014321	片品川左岸断層※ ²
F014421	大久保断層※ ²
F014521	太田断層※ ²
F014621	長野盆地西縁断層帯飯山一千曲区間※ ²
F014622	長野盆地西縁断層帯麻績区間※ ²
F01462A	長野盆地西縁断層帯（全体が同時に活動）※ ²
F014721	深谷断層帯※ ²
F014821	綾瀬川断層鴻巣一伊奈区間※ ²
F014822	綾瀬川断層伊奈一川口区間※ ²
F01482A	深谷断層・綾瀬川断層（深谷断層と鴻巣一伊奈区間が同時に活動）※ ²
F01482B	深谷断層・綾瀬川断層（鴻巣一伊奈区間と伊奈一川口区間が同時に活動）※ ²
F01482C	深谷断層・綾瀬川断層（全体が同時に活動）※ ²
F014921	越生断層※ ²
F015021	立川断層帯※ ²
F015121	鴨川低地断層帯※ ²
F015221	三浦半島断層群主部衣笠・北武断層帯※ ²
F015222	三浦半島断層群主部武山断層帯※ ²
F015223	三浦半島断層群南部※ ²
F015321	伊勢原断層※ ²
F015421	塩沢断層帯※ ²
F015521	平山-松田北断層帯※ ²
F015621	曾根丘陵断層帯※ ²
F015721	身延断層※ ²
F015821	北伊豆断層帯※ ²
F015921	伊東沖断層※ ²
F016021	稲取断層帯※ ²
F016121	石廊崎断層※ ²
F016221	糸魚川一静岡構造線断層帯北部※ ²
F016222	糸魚川一静岡構造線断層帯中北部※ ²
F016223	糸魚川一静岡構造線断層帯中南部※ ²

断層コード	断層名
F016224	糸魚川－静岡構造線断層帯南部※ ²
F01622A	糸魚川－静岡構造線断層帯（北部と中北部が同時に活動）※ ²
F01622B	糸魚川－静岡構造線断層帯（中北部と中南部が同時に活動）※ ²
F01622C	糸魚川－静岡構造線断層帯（中南部と南部が同時に活動）※ ²
F01622D	糸魚川－静岡構造線断層帯（北部と中北部と中南部が同時に活動）※ ²
F01622E	糸魚川－静岡構造線断層帯（中北部と中南部と南部が同時に活動）※ ²
F01622F	糸魚川－静岡構造線断層帯（全体が同時に活動）※ ²
F017001	宍道（鹿島）断層（ケース1）※ ³
F017101	宍道（鹿島）断層（ケース2）※ ³
F017201	雨滝－釜戸断層※ ³
F017301	鹿野－吉岡断層※ ³
F017401	日南湖断層※ ³
F017501	岩坪断層※ ³
F017601	山崎断層帯（那岐山断層帯）※ ³
F017701	山崎断層帯（主部北西部区間）※ ³
F017702	山崎断層帯（主部南東部区間）※ ³
F01770A	山崎断層帯（主部北西部区間と主部南東部区間が同時に活動）※ ³
F017801	長者ヶ原－芳井断層※ ³
F017901	宇津戸断層※ ³
F018001	安田断層※ ³
F018101	菊川断層帯（北部区間）※ ³
F018201	菊川断層帯（中部区間）※ ³
F018301	菊川断層帯（南部区間）※ ³
F01820A	菊川断層帯（北部区間と中部区間が同時に活動）※ ³
F01830A	菊川断層帯（中部区間と南部区間が同時に活動）※ ³
F01830B	菊川断層帯（全体が同時に活動）※ ³
F018401	岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）※ ³
F018501	岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）※ ³
F018601	岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）※ ³
F01850A	岩国－五日市断層帯（己斐断層区間と岩国断層区間が同時に活動）※ ³
F01860A	岩国－五日市断層帯（五日市断層区間と岩国断層区間が同時に活動）※ ³
F018701	周防灘断層帯（周防灘断層帯主部区間）※ ³
F018801	周防灘断層帯（秋穂沖断層区間）※ ³
F018901	安芸灘断層帯※ ³
F019001	広島湾－岩国沖断層帯※ ³
F019101	宇部南方沖断層※ ³

断層コード	断層名	
F019201	弥栄断層 ^{※3}	
F019301	地福断層 ^{※3}	
F019401	大原湖断層 ^{※3}	
F019501	小郡断層 ^{※3}	
F019601	筒賀断層 ^{※3}	
F019701	滝部断層 ^{※3}	
F019801	奈古断層 ^{※3}	
F019901	栄谷断層 ^{※3}	
F020001	黒瀬断層 ^{※3}	
F020101	中央構造線断層帯（金剛山地東縁区間） ^{※4}	
F020102	FH20102	中央構造線断層帯（五条谷区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20102	中央構造線断層帯（五条谷区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020103	FH20103	中央構造線断層帯（根来区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20103	中央構造線断層帯（根来区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020104	FH20104	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20104	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020105	FH20105	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20105	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020106	FH20106	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20106	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020107	FH20107	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20107	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020108	FH20108	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20108	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020109	FH20109	中央構造線断層帯（伊予灘区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}
	FM20109	中央構造線断層帯（伊予灘区間）（傾斜角 40 度） ^{※4}
F020110	FH20110	中央構造線断層帯（豊予海峡－由布院区間）（傾斜角 90 度） ^{※4}

断層コード	断層名	
		度) ※4
	FM20110	中央構造線断層帯(豊予海峡-由布院区間)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AB	FH201AB	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~五条谷区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AB	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~五条谷区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AC	FH201AC	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~根来区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AC	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~根来区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AD	FH201AD	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~紀淡海峡-鳴門海峡区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AD	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~紀淡海峡-鳴門海峡区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AE	FH201AE	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AE	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AF	FH201AF	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AF	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AG	FH201AG	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~石鎚山脈北縁区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AG	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~石鎚山脈北縁区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AH	FH201AH	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AH	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AI	FH201AI	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~伊予灘区間が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※4
	FM201AI	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間~伊予灘区間が同時に活動)(傾斜角 40 度) ※4
F0201AJ	FH201AJ	中央構造線断層帯(全体が同時に活動)(傾斜角 90 度) ※

断層コード	断層名	
		4
	FM201AJ	中央構造線断層帯（全体が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BC	FH201BC	中央構造線断層帯（五条谷区間～根来区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BC	中央構造線断層帯（五条谷区間～根来区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BD	FH201BD	中央構造線断層帯（五条谷区間～紀淡海峡－鳴門海峡区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BD	中央構造線断層帯（五条谷区間～紀淡海峡－鳴門海峡区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BE	FH201BE	中央構造線断層帯（五条谷区間～讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BE	中央構造線断層帯（五条谷区間～讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BF	FH201BF	中央構造線断層帯（五条谷区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BF	中央構造線断層帯（五条谷区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BG	FH201BG	中央構造線断層帯（五条谷区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BG	中央構造線断層帯（五条谷区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BH	FH201BH	中央構造線断層帯（五条谷区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BH	中央構造線断層帯（五条谷区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BI	FH201BI	中央構造線断層帯（五条谷区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BI	中央構造線断層帯（五条谷区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201BJ	FH201BJ	中央構造線断層帯（五条谷区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4
	FM201BJ	中央構造線断層帯（五条谷区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F0201CD	FH201CD	中央構造線断層帯（根来区間～紀淡海峡－鳴門海峡区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※4

断層コード	断層名	
	FM201CD	中央構造線断層帯（根来区間～紀淡海峡－鳴門海峡区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201CE	FH201CE	中央構造線断層帯（根来区間～讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201CE	中央構造線断層帯（根来区間～讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201CF	FH201CF	中央構造線断層帯（根来区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201CF	中央構造線断層帯（根来区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201CG	FH201CG	中央構造線断層帯（根来区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201CG	中央構造線断層帯（根来区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201CH	FH201CH	中央構造線断層帯（根来区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201CH	中央構造線断層帯（根来区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201CI	FH201CI	中央構造線断層帯（根来区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201CI	中央構造線断層帯（根来区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201CJ	FH201CJ	中央構造線断層帯（根来区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201CJ	中央構造線断層帯（根来区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201DE	FH201DE	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201DE	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～讃岐山脈南縁東部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201DF	FH201DF	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201DF	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201DG	FH201DG	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴

断層コード	断層名	
	FM201DG	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201DH	FH201DH	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201DH	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201DI	FH201DI	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201DI	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201DJ	FH201DJ	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201DJ	中央構造線断層帯（紀淡海峡－鳴門海峡区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201EF	FH201EF	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201EF	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～讃岐山脈南縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201EG	FH201EG	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201EG	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201EH	FH201EH	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201EH	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201EI	FH201EI	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201EI	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201EJ	FH201EJ	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201EJ	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁東部区間～豊予海峡－由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201FG	FH201FG	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴

断層コード	断層名	
	FM201FG	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～石鎚山脈北縁区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201FH	FH201FH	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201FH	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201FI	FH201FI	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201FI	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201FJ	FH201FJ	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201FJ	中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201GH	FH201GH	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201GH	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間～石鎚山脈北縁西部区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201GI	FH201GI	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201GI	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201GJ	FH201GJ	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201GJ	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201HI	FH201HI	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201HI	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間～伊予灘区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201HJ	FH201HJ	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴
	FM201HJ	中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※ ⁴
F0201IJ	FH201IJ	中央構造線断層帯（伊予灘区間～豊予海峡一由布院区間が同時に活動）（傾斜角 90 度）※ ⁴

断層コード	断層名	
	FM2011J	中央構造線断層帯（伊予灘区間～豊予海峡～由布院区間が同時に活動）（傾斜角 40 度）※4
F022131	長尾断層帯※4	
F022231	上法軍寺断層※4	
F022331	上浦一西月ノ宮断層※4	
F022431	綱附森断層※4	

※1 九州地域において詳細な評価を行った活断層

※2 関東地域において詳細な評価を行った活断層

※3 中国地域において詳細な評価を行った活断層

※4 四国地域において詳細な評価を行った活断層

(2) 海溝型地震断層コード

海溝型地震断層コードを表 2-2 に、海溝型地震連動型断層コードを表 2-3 に示す。

表 2-2 海溝型地震断層コード

断層コード	該当する地震名
ANNKI	南海地震
ATNKI	東南海地震
ATOKI	想定東海地震
ANN10	南海トラフの地震（ZYXE）
ANN11	南海トラフの地震（ZYXEd）
ANN12	南海トラフの地震（ZYXEs）
ANN13	南海トラフの地震（ZYXEsd）
ANN20	南海トラフの地震（YXE）
ANN21	南海トラフの地震（YXEs）
ANN30	南海トラフの地震（ZYX）
ANN31	南海トラフの地震（ZYXs）
ANN40	南海トラフの地震（YX）
ANN41	南海トラフの地震（YXs）
ANN50	南海トラフの地震（s）
ANN60	南海トラフの地震（ZY）
ANN70	南海トラフの地震（XE）
ANN80	南海トラフの地震（Y）
ANN90	南海トラフの地震（X）
ANNI1	南海トラフの地震（ZY、XE）（2013 年版～）

ANNI2	南海トラフの地震 (Y、XE) (2013年版～)
ANNI3	南海トラフの地震 (ZY、X) (2013年版～)
ANNI4	南海トラフの地震 (Y、X)
ATHOP	東北地方太平洋沖型地震
AMYAS	宮城県沖地震 (繰り返し発生する地震)
BMYAS	宮城県沖地震 (繰り返し発生する地震以外の地震)
AMYA1	宮城県沖地震 A1
AMYA2	宮城県沖地震 A2
AMIYB	三陸沖南部海溝寄りの地震 (B)
ASNK	三陸沖南部海溝寄りの地震 (繰り返し発生する地震)
BSNK	三陸沖南部海溝寄りの地震 (繰り返し発生する地震以外の地震)
ASNKT	三陸沖北部のプレート間大地震 (繰り返し発生する地震)
BTNMI	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート間大地震 (津波地震)
BNRML	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート内大地震 (正断層型)
BSNKT	三陸沖北部のプレート間大地震 (繰り返し発生する地震以外の地震)
BFKSM	福島県沖の地震
AIBRK	茨城県沖の地震 (繰り返し発生する地震)
BIBRK	茨城県沖の地震 (繰り返し発生する地震以外の地震)
ATKCH	十勝沖の地震
ANMRO	根室沖の地震
ASKTN	色丹島沖の地震
AETRF	択捉島沖の地震
BTKNM	十勝沖・根室沖のひとまわり小さいプレート間地震
BSKET	色丹島沖・択捉島沖のひとまわり小さいプレート間地震
BITRS	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや浅い地震
BITRD	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや深い地震
BHKNW	北海道北西沖の地震
AHKDW	北海道西方沖の地震
AHKSW	北海道南西沖の地震
AAOMW	青森県西方沖の地震
BAKIT	秋田県沖の地震
AYMGA	山形県沖の地震

ANIGT	新潟県北部沖の地震
BSDGN	佐渡島北方沖の地震
BAKND	安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震
BHGNL	日向灘のプレート間地震
BHGNS	日向灘のひとまわり小さいプレート間地震
BYNGN	与那国島周辺の地震
AKNTO	大正型関東地震
BKNT0	相模トラフ沿いの地震:その他の南関東で発生する M7 程度の地震
ASG01	相模トラフの地震 (CS1) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 1) (2014 年版～)
ASG02	相模トラフの地震 (CST1) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 2) (2014 年版～)
ASG03	相模トラフの地震 (CS12) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 3) (2014 年版～)
ASG04	相模トラフの地震 (CST12) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 4) (2014 年版～)
ASG05	相模トラフの地震 (CST123) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 5) (2014 年版～)
ASG06	相模トラフの地震 (CS2) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 6) (2014 年版～)
ASG07	相模トラフの地震 (CST2) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 7) (2014 年版～)
ASG08	相模トラフの地震 (CST23) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 8) (2014 年版～)
ASG09	相模トラフの地震 (CST123D) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 9) (2014 年版～)
ASG10	相模トラフの地震 (CD1) (2013 年版) 相模トラフ沿いの M8 クラスの地震 (領域 10) (2014 年版～)

	～)
ACH01	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.7モデル1)
ACH02	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.7モデル2)
ACH03	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.7モデル3)
ACH04	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.8モデル1)
ACH05	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.8モデル2)
ACH06	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.8モデル3)
ACH07	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.8モデル4)
ACH08	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.9モデル1)
ACH09	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw8.9モデル2)
ACH10	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw9.0モデル1)
ACH11	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw9.0モデル2)
ACH12	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw9.0モデル3)
ACH13	千島海溝沿いの超巨大地震 (Mw9.2モデル1)
ANM01	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル1)
ANM02	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル2)
ANM03	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル3)
ANM04	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル4)
ANM05	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル5)
ANM06	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル6)
ANM07	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル7)
ANM08	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0モデル8)
ANM09	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1モデル1)
ANM10	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1モデル2)
ANM11	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1モデル3)
ANM12	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1モデル4)
ANM13	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1モデル5)
ANM14	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1モデル6)
ANM15	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2モデル1)
ANM16	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2モデル2)
ANM17	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2モデル3)
ANM18	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル1)
ANM19	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル2)
ANM20	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル3)
ANM21	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.4モデル1)
ANM22	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.4モデル2)
ANM23	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.4モデル3)

ANM24	根室沖のプレート間巨大地震 (Mw8.5 モデル 1)
ATK01	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 1)
ATK02	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 2)
ATK03	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 3)
ATK04	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 4)
ATK05	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 5)
ATK06	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 6)
ATK07	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 7)
ATK08	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 8)
ATK09	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 9)
ATK10	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 10)
ATK11	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 11)
ATK12	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 12)
ATK13	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 13)
ATK14	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 1)
ATK15	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 2)
ATK16	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 3)
ATK17	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 4)
ATK18	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 5)
ATK19	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 6)
ATK20	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 7)
ATK21	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 8)
ATK22	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 1)
ATK23	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 2)
ATK24	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 3)
ATK25	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 4)
ATK26	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 5)
ATK27	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3 モデル 1)
ATK28	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3 モデル 2)
ATK29	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3 モデル 3)
ATK30	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.3 モデル 4)
ATK31	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.4 モデル 1)
ATK32	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.5 モデル 1)
ATK33	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.5 モデル 2)
ATK34	十勝沖のプレート間巨大地震 (Mw8.6 モデル 1)
BCHTN	千島海溝寄りのプレート間地震 (津波地震等)
AAE01	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震

	(Mw7.9 モデル 1)
AAE02	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 2)
AAE03	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 3)
AAE04	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 4)
AAE05	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 5)
AAE06	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 6)
AAE07	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 7)
AAE08	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 8)
AAE09	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 9)
AAE10	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 10)
AAE11	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 11)
AAE12	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 12)
AAE13	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 13)
AAE14	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 14)
AAE15	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw7.9 モデル 15)
AAE16	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 1)
AAE17	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 2)
AAE18	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 3)
AAE19	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 4)

AAE20	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 5)
AAE21	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 6)
AAE22	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 7)
AAE23	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 8)
AAE24	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 9)
AAE25	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.0 モデル 10)
AAE26	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 1)
AAE27	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 2)
AAE28	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 3)
AAE29	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 4)
AAE30	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 5)
AAE31	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 6)
AAE32	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 7)
AAE33	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.1 モデル 8)
AAE34	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 1)
AAE35	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 2)
AAE36	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 3)
AAE37	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 4)
AAE38	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.2 モデル 5)

AAE39	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.2モデル6)
AAE40	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル1)
AAE41	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル2)
AAE42	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル3)
AAE43	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル4)
AAE44	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.3モデル5)
AAE45	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.4モデル1)
AAE46	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.4モデル2)
AAE47	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.5モデル1)
AAE48	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.5モデル2)
AAE49	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.6モデル1)
AAE50	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.7モデル1)
AAE51	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震 (Mw8.8モデル1)
AJT01	日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)(Mw8.6 モデル1)
AJT02	日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)(Mw8.8 モデル1)
AJT03	日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)(Mw8.7 モデル1)
AJT04	日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)(Mw8.9 モデル1)
AJT05	日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)(Mw8.8 モデル2)
AJT06	日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)(Mw9.0 モデル1)

AJT07	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）（Mw8.6モデル2）
AJT08	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）（Mw8.7モデル2）
AJT09	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）（Mw8.7モデル3）
AJT10	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）（Mw8.9モデル2）
AMY01	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル1）
AMY02	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル2）
AMY03	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル3）
AMY04	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル4）
AMY05	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル5）
AMY06	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル6）
AMY07	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw7.9モデル7）
AMY08	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.0モデル1）
AMY09	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.0モデル2）
AMY10	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.0モデル3）
AMY11	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.0モデル4）
AMY12	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.1モデル1）
AMY13	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.1モデル2）
AMY14	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.1モデル3）
AMY15	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.2モデル1）
AMY16	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.2モデル2）
AMY17	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.3モデル1）
AMY18	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.4モデル1）
AMY19	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.5モデル1）
AMY20	宮城県沖のプレート間巨大地震（Mw8.6モデル1）
AN001	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン1）
AN002	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン2）
AN003	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン3）
AN004	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン4）
AN005	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン5）
AN006	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン6）
AN007	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン7）
AN008	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン8）

AN081	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 81）
AN082	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 82）
AN083	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 83）
AN084	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 84）
AN085	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 85）
AN086	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 86）
AN087	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 87）
AN088	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 88）
AN089	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 89）
AN090	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 90）
AN091	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 91）
AN092	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 92）
AN093	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 93）
AN094	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 94）
AN095	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 95）
AN096	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 96）
AN097	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 97）
AN098	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 98）
AN099	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 99）
AN100	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 100）
AN101	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 101）
AN102	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 102）
AN103	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 103）
AN104	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 104）
AN105	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 105）
AN106	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 106）
AN107	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 107）
AN108	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 108）
AN109	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 109）
AN110	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 110）
AN111	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 111）
AN112	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 112）
AN113	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 113）
AN114	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 114）
AN115	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 115）
AN116	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン 116）

AN153	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン153）
AN154	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン154）
AN155	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン155）
AN156	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン156）
AN157	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン157）
AN158	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン158）
AN159	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン159）
AN160	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン160）
AN161	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン161）
AN162	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン162）
AN163	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン163）
AN164	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン164）
AN165	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン165）
AN166	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン166）
AN167	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン167）
AN168	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン168）
AN169	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン169）
AN170	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン170）
AN171	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン171）
AN172	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン172）
AN173	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン173）
AN174	海トラフ沿いで発生する大地震（パターン174）
AN175	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン175）
AN176	南海トラフ沿いで発生する大地震（パターン176）
AN177	南海トラフ沿いで発生する大地震（最大クラス）
BJOUT	日本海溝の海溝軸外側の地震
BJPTN	日本海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）

表 2-3 海溝型地震連動型断層コード

断層コード	該当する連動地震名
ANNI1	南海～東南海連動地震（～2012年版）
ANNI2	東南海～想定東海連動地震（～2012年版）
ANNI3	南海～東南海～想定東海連動地震（～2012年版）
AMYI1	宮城県沖地震 A1+B
AMYI2	宮城県沖地震 A2+B
AMYI3	宮城県沖地震 A1+A2+B

ATN11	十勝沖～根室沖連動地震
-------	-------------

(3) その他の活断層断層コード

その他の活断層断層コードを表 2-4 に示す。

表 2-4 その他の活断層断層コード

断層コード	断層名
G030001	羅臼岳断層帯
G030002	斜里岳東断層帯
G030003	網走湖断層帯
G030004	常呂川東岸断層
G030005	問寒別断層帯
G030006	幌延断層帯
G030008	ポンニタシベツ断層
G030009	三ツ石－浦河断層帯
G030010	軽舞断層（石狩残部）
G030011	野幌丘陵断層帯
G030012	尻別川断層帯
G030013	八雲断層帯
G030014	野辺地断層帯
G030015	津軽山地西縁断層帯北部北方延長（津軽山地西縁断層帯北部・中部残）
G030016	岩木山南麓断層帯
G030018	滝沢鶉飼西断層（北上残部）
G030019	田沢湖断層帯
G030020	北口断層帯
G030021	横手盆地西南断層帯
G030022	烏田目断層帯
G030023	釜ヶ台断層帯
G030024	象潟断層帯
G030025	旭山撓曲帯
G030026	愛島推定断層
G030027	作並－屋敷平断層帯
G030028	遠刈田断層帯
G030029	尾花沢断層帯
G030030	鮭川断層（新庄盆地西縁断層帯残部）
G030031	小樽川断層帯
G030032	双葉断層南部（原町市大原以南）（双葉断層南部 C 級残）

断層コード	断層名
G030033	大阪－足沢断層帯
G030034	二ツ箭断層
G030035	三郡森断層帯
G030036	湯ノ岳断層
G030037	井戸沢断層
G030038	高萩付近推定
G030039	棚倉破砕帯西縁断層
G030040	安達太良山東麓断層帯
G030041	川桁山断層帯
G030042	白河西方断層帯
G030043	檜枝岐西断層
G030044	虚空蔵山東方断層
G030045	羽津断層帯
G030046	沼越峠断層
G030047	吉野屋断層
G030048	悠久山断層帯
G030049	常楽寺断層
G030050	大佐渡西岸断層帯
G030051	国中平野南断層
G030052	六日町断層帯
G030053	平滝－伏野峠断層
G030054	高田平野東縁断層帯
G030055	高田平野西縁断層帯
G030056	戸隠山断層
G030057	常念岳東断層帯
G030059	早乙女岳断層
G030060	能都断層帯
G030061	霧ヶ峰断層帯
G030062	鴨川低地断層帯北断層
G030063	越生断層
G030064	鶴川断層
G030065	扇山断層
G030066	玄倉－塩沢断層帯
G030067	秦野断層帯
G030069	丹那断層帯南端群
G030070	達磨山断層帯

断層コード	断層名
G030071	石廊崎断層
G030072	日本平断層帯
G030073	畑薙山断層
G030074	中央構造線赤石山地西縁断層帯
G030075	下伊那竜東断層帯
G030076	平岡断層
G030078	鈴ヶ沢断層
G030079	白巢峠断層帯
G030080	若栃峠断層
G030081	久野川断層
G030082	古川断層帯（戸市川断層）
G030083	口有道－山之口断層
G030084	屏風山断層南西部（屏風山断層南西部残り）
G030085	笠原断層
G030086	華立断層
G030087	深溝断層帯
G030088	名古屋市付近断層
G030089	天白河口断層
G030090	眉丈山断層帯
G030091	谷汲木知原断層
G030092	池田山断層
G030093	津島断層帯
G030094	鈴鹿沖断層
G030095	養老山地西縁断層帯
G030096	宝慶寺断層
G030097	金草岳断層帯
G030098	奥川並断層
G030099	更毛断層
G030100	宝泉寺断層帯
G030101	美浜湾沖断層
G030102	耳川断層帯
G030103	琵琶湖東岸湖底断層
G030104	熊川断層帯
G030105	琵琶湖南部湖底断層
G030106	大鳥居断層帯
G030107	鈴鹿坂下断層帯

断層コード	断層名
G030108	経ヶ峯南断層
G030109	中央構造線多気
G030110	家城断層帯
G030111	名張断層帯
G030112	信楽断層帯
G030113	和束谷断層
G030114	田原断層
G030115	あやめ池撓曲帯
G030116	京阪奈丘陵撓曲帯
G030117	羽曳野断層帯
G030118	和泉北麓断層帯
G030119	中央構造線五条
G030120	埴生断層
G030121	中山断層帯
G030122	三岳山断層
G030123	御所谷断層帯
G030124	高塚山断層
G030125	志筑断層帯
G030126	飯山寺断層帯
G030127	養父断層帯
G030128	明延北方断層
G030129	引原断層
G030130	雨滝一釜戸断層
G030131	岩坪断層帯（鹿野断層）
G030132	岩坪断層帯（岩坪断層）
G030133	鹿島断層帯
G030134	芳井断層
G030135	福山断層帯
G030136	御調断層
G030137	庄原断層
G030138	三次断層帯
G030139	上根断層
G030140	筒賀断層帯
G030141	弥栄断層帯
G030142	大原湖断層
G030143	渋木断層

断層コード	断層名
G030144	徳島平野南縁断層帯
G030145	鮎喰川断層帯
G030146	江畑断層帯
G030147	高縄山北断層
G030148	綱付森断層
G030149	安田断層
G030150	行当岬断層
G030151	高知吾川
G030152	宿毛一中村断層帯
G030153	土佐清水北断層帯
G030154	小倉東断層帯
G030155	福智山断層帯
G030157	佐賀関断層
G030158	福良木断層
G030159	多良岳南西麓断層帯
G030160	阿蘇外輪南麓断層群
G030161	緑川断層帯
G030162	鶴木場断層帯
G030163	国見岳断層帯
G030164	川南一征矢原断層
G030166	水俣断層帯
G030167	長島断層群
G030168	鹿児島湾東縁断層帯
G030169	鹿児島湾西縁断層帯
G030170	市木断層帯
G030171	池田湖西断層帯
G030172	種子島北部断層
G030173	屋久島南岸断層帯
G030174	喜界島断層帯
G030175	沖永良部島断層帯
G030176	金武湾西岸断層帯
G030177	宮古島断層帯
G030178	与那国島断層帯
G030179	能登半島地震断層
G030180	宇部東部断層一下郷断層
G030181	宇部南東沖断層帯

断層コード	断層名
G030182	姫島北西沖断層帯
G030183	糸島半島沖断層群※
G030184	佐賀関断層※
G030185	多良岳南西麓断層帯※
G030186	福良木断層※
G030187	阿蘇外輪南麓断層群※
G030188	鶴木場断層帯※
G030189	国見岳断層帯※
G030190	水俣断層帯※
G030191	鹿児島湾東縁断層帯※
G030192	鹿児島湾西縁断層帯※
G030193	池田湖西断層帯※

※九州地域において簡便な評価を行った活断層

3. 改訂履歴

- 2010年5月 主要活断層帯断層コードの追加、断層名の変更への対応。
- 2011年5月 地震名及び断層名の説明を一部修正。
- 2012年12月 主要活断層帯断層コードの追加、海溝型地震断層コードの追加、断層名の変更への対応。
- 2013年12月 断層コードの追加。
- 2016年4月 主要活断層帯断層コードの追加
- 2017年4月 主要活断層帯断層コードの追加
- 2018年6月 主要活断層帯断層コードの追加、海溝型地震断層コードの追加

地震グループコード規約

1. 概要

本書は、全国地震動予測地図において考慮した地震グループを一意に定める地震グループコードの規約を示すものである。地震グループコードはファイル名やデータファイル内で利用される。

2. 地震グループコード

地震グループコードは、主要活断層帯に発生する地震（地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震を含む）に関して定義する。

(1) 主要活断層帯に発生する地震

主要活断層帯に発生する地震の地震グループコードとグループに含まれる地震の断層コードを表 2-1 に示す。断層コードは「断層コード規約」を参照のこと。

表 2-1 地震グループコード

地震グループコード	グループ名	断層コード
F0001_001	標津断層帯に発生する地震	F000101
F0002_001	十勝平野断層帯主部に発生する地震	F000201
F0002_002	光地園断層に発生する地震	F000202
F0003_001	富良野断層帯西部に発生する地震	F000301
F0003_002	富良野断層帯東部に発生する地震	F000302
F0004_001	増毛山地東縁断層帯に発生する地震	F000401
F0004_002	沼田-砂川付近の断層帯に発生する地震	F000402
F0005_001	当別断層に発生する地震	F000501
F0006_001	石狩低地東縁断層帯主部に発生する地震	F000601
F0006_002	石狩低地東縁断層帯南部に発生する地震	F000602
F0007_001	黒松内低地断層帯に発生する地震	F000701
F0008_001	函館平野西縁断層帯に発生する地震	F000801
F0009_001	青森湾西岸断層帯に発生する地震	F000901
F0010_001	津軽山地西縁断層帯北部に発生する地震	F001001
F0010_002	津軽山地西縁断層帯南部に発生する地震	F001002
F0011_001	折爪断層に発生する地震	F001101
F0012_001	能代断層帯に発生する地震	F001201
F0013_001	北上低地西縁断層帯に発生する地震	F001301
F0014_001	雫石盆地西縁断層帯に発生する地震	F001401
F0014_002	真昼山地東縁断層帯北部に発生する地震	F001402

地震グループ コード	グループ名	断層コード
F0014_003	真昼山地東縁断層帯南部に発生する地震	F001403
F0015_001	横手盆地東縁断層帯北部に発生する地震	F001501
F0015_002	横手盆地東縁断層帯南部に発生する地震	F001502
F0016_001	北由利断層に発生する地震	F001601
F0017_001	新庄盆地断層帯東部に発生する地震	F001701
F0017_002	新庄盆地断層帯西部に発生する地震	F001702
F0018_001	山形盆地断層帯北部に発生する地震	F001801
F0018_002	山形盆地断層帯南部に発生する地震	F001802
F0019_001	庄内平野東縁断層帯北部に発生する地震	F001901
F0019_002	庄内平野東縁断層帯南部に発生する地震	F001902
F0020_001	長町-利府線断層帯に発生する地震	F002001
F0021_001	福島盆地西縁断層帯に発生する地震	F002101
F0022_001	長井盆地西縁断層帯に発生する地震	F002201
F0023_001	双葉断層に発生する地震	F002301
F0024_001	会津盆地西縁断層帯に発生する地震	F002401
F0024_002	会津盆地東縁断層帯に発生する地震	F002402
F0025_001	楡形山脈断層帯に発生する地震	F002501
F0026_001	月岡断層帯に発生する地震	F002601
F0027_001	長岡平野西縁断層帯に発生する地震	F002701
F0039_001	十日町断層帯西部に発生する地震	F003901
F0039_002	十日町断層帯東部に発生する地震	F003902
F0045_001	木曾山脈西縁断層帯主部北部に発生する地震	F004501
F0045_002	木曾山脈西縁断層帯主部南部に発生する地震	F004502
F0045_003	清内路峠断層帯に発生する地震	F004503
F0046_001	境峠・神谷断層帯主部に発生する地震	F004601
F0046_002	霧訪山-奈良井断層帯に発生する地震	F004602
F0047_001	跡津川断層帯に発生する地震	F004701
F0048_001	高山・大原断層帯国府断層帯に発生する地震	F004801
F0048_002	高山・大原断層帯高山断層帯に発生する地震	F004802
F0048_003	高山・大原断層帯猪之鼻断層帯に発生する地震	F004803
F0049_001	牛首断層帯に発生する地震	F004901
F0050_001	庄川断層帯に発生する地震	F005001
F0051_001	伊那谷断層帯主部に発生する地震	F005101
F0051_002	伊那谷断層帯南東部に発生する地震	F005102

地震グループ コード	グループ名	断層コード
F0052_001	阿寺断層帯主部北部に発生する地震	F005201
F0052_002	阿寺断層帯主部南部に発生する地震	F005202
F0052_003	阿寺断層帯佐見断層帯に発生する地震	F005203
F0052_004	阿寺断層帯白川断層帯に発生する地震	F005204
F0053_001	屏風山・恵那山-猿投山断層帯屏風山断層帯に発生する地震	F005301
F0053_002	赤河断層帯に発生する地震	F005302
F0053_003	恵那山-猿投山北断層帯に発生する地震	F005303
F0053_004	猿投-高浜断層帯に発生する地震	F005304
F0053_005	加木屋断層帯に発生する地震	F005305
F0055_001	邑知渦断層帯に発生する地震	F005501
F0056_001	砺波平野断層帯西部に発生する地震	F005601
F0056_002	砺波平野断層帯東部に発生する地震	F005602
F0056_003	呉羽山断層帯に発生する地震	F005603
F0057_001	森本・富樫断層帯に発生する地震	F005701
F0058_001	福井平野東縁断層帯主部に発生する地震	F005801
F0058_002	福井平野東縁断層帯西部に発生する地震	F005802
F0059_001	長良川上流断層帯に発生する地震	F005901
F0060_001	温見断層北西部に発生する地震	F006001
F0060_002	温見断層南東部に発生する地震	F006002
F0060_003	濃尾断層帯主部根尾谷断層帯に発生する地震	F006003
F0060_004	濃尾断層帯主部梅原断層帯に発生する地震	F006004
F0060_005	濃尾断層帯主部三田洞断層帯に発生する地震	F006005
F0060_006	揖斐川断層帯に発生する地震	F006006
F0060_007	武儀川断層に発生する地震	F006007
F0061_001	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部北部に発生する地震	F006101
F0061_002	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部中部に発生する地震	F006102
F0061_003	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部南部に発生する地震	F006103
F0061_004	浦底-柳ヶ瀬山断層帯に発生する地震	F006104
F0063_001	野坂断層帯に発生する地震	F006301
F0063_002	集福寺断層に発生する地震	F006302
F0064_001	湖北山地断層帯北西部に発生する地震	F006401
F0064_002	湖北山地断層帯南東部に発生する地震	F006402
F0065_001	琵琶湖西岸断層帯北部に発生する地震	F006501

地震グループ コード	グループ名	断層コード
F0065_002	琵琶湖西岸断層帯南部に発生する地震	F006502
F0067_001	養老-桑名-四日市断層帯に発生する地震	F006701
F0068_001	鈴鹿東縁断層帯に発生する地震	F006801
F0069_001	鈴鹿西縁断層帯に発生する地震	F006901
F0070_001	頓宮断層帯に発生する地震	F007001
F0071_001	布引山地東縁断層帯西部に発生する地震	F007101
F0071_002	布引山地東縁断層帯東部に発生する地震	F007102
F0072_001	木津川断層帯に発生する地震	F007201
F0073_001	三方断層帯に発生する地震	F007301
F0073_002	花折断層帯北部に発生する地震	F007302
F0073_003	花折断層帯中南部に発生する地震	F007303
F0074_001	山田断層帯主部に発生する地震	F007401
F0074_002	郷村断層帯に発生する地震	F007402
F0075_001	奈良盆地東縁断層帯に発生する地震	F007501
F0076_001	有馬-高槻断層帯に発生する地震	F007601
F0077_001	生駒断層帯に発生する地震	F007701
F0078_001	上林川断層帯に発生する地震	F007801
F0078_002	三峠断層帯に発生する地震	F007802
F0078_003	京都西山断層帯に発生する地震	F007803
F0079_001	六甲・淡路島断層帯主部 六甲山地南縁-淡路島東岸区間に発生する地震	F007901
F0079_002	六甲・淡路島断層帯主部淡路島西岸区間に 発生する地震	F007902
F0079_003	先山断層帯に発生する地震	F007903
F0080_001	上町断層帯に発生する地震	F008001
F0081_001	中央構造線断層帯金剛山地東縁に発生する地震	F008101
F0081_002	中央構造線断層帯紀淡海峡-鳴門海峡に 発生する地震	F008102
F0081_003	中央構造線断層帯讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部 に発生する地震	F008103
F0081_004	中央構造線断層帯石鎚山脈北縁に発生する地震	F008104
F0081_005	中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部-伊予灘に 発生する地震	F008105
F0081_006	中央構造線断層帯和泉山脈南縁に発生する地震	F008106

地震グループ コード	グループ名	断層コード
F0082_001	草谷断層に発生する地震	F008204
F0084_001	長尾断層帯に発生する地震	F008401
F0097_001	伊勢湾断層帯主部北部に発生する地震	F009701
F0097_002	伊勢湾断層帯主部南部に発生する地震	F009702
F0097_003	白子-野間断層に発生する地震	F009703
F0098_001	大阪湾断層帯に発生する地震	F009801
F0099_001	サロベツ断層帯に発生する地震	F009901
F0101_001	花輪東断層帯に発生する地震	F010101
F0102_001	高田平野西縁断層帯に発生する地震	F010201
F0102_002	高田平野東縁断層帯に発生する地震	F010202
F0103_001	六日町断層帯北部に発生する地震	F010335, F010336
F0103_002	六日町断層帯南部に発生する地震	F010302
F0105_001	魚津断層帯に発生する地震	F010501
F0110_001	宮古島断層帯中部に発生する地震	F011001
F0110_002	宮古島断層帯西部に発生する地震	F011002
F0120_001	小倉東断層に発生する地震	F012001
F0121_001	福智山断層帯に発生する地震	F012101
F0122_001	西山断層帯に発生する地震	F012201~F012203, F01220A~F01220C
F0123_001	宇美断層に発生する地震	F012301
F0124_001	警固断層帯に発生する地震	F012401, F012402, F01240A
F0125_001	日向峠-小笠木峠断層帯に発生する地震	F012501
F0126_001	水縄断層帯に発生する地震	F012601
F0127_001	佐賀平野北縁断層帯に発生する地震	F012701
F0128_001	別府湾-日出生断層帯に発生する地震	F012801, F012802, F01280A
F0128_002	大分平野-由布院断層帯に発生する地震	F012803, F012804, F01280B
F0128_003	野稻岳-万年山断層帯に発生する地震	F012805
F0128_004	崩平山-亀石山断層帯に発生する地震	F012806
F0129_001	雲仙断層群北部に発生する地震	F012901
F0129_002	雲仙断層群南東部に発生する地震	F012902
F0129_003	雲仙断層群南西部に発生する地震	F012903, F012904, F01290A
F0130_001	布田川断層帯・日奈久断層帯に発生する地震	F013001~F013003, F01300A~F01300F, F013101~F013103,

地震グループ コード	グループ名	断層コード
		F01310A~F01310C
F0132_001	緑川断層帯に発生する地震	F013201
F0133_001	人吉盆地南縁断層に発生する地震	F013301
F0134_001	出水断層帯に発生する地震	F013401
F0135_001	甑断層帯上甑島北東沖区間に発生する地震	F013501
F0135_002	甑断層帯甑区間に発生する地震	F013502
F0136_001	市来断層帯市来区間に発生する地震	F013601
F0136_002	市来断層帯甑海峡中央区間に発生する地震	F013602
F0136_003	市来断層帯吹上浜西方沖区間に発生する地震	F013603
F0137_001	日出生断層帯に発生する地震	F013701
F0138_001	万年山-崩平山断層帯に発生する地震	F013801
F0141_001	関谷断層に発生する地震	F014121
F0142_001	内ノ籠断層に発生する地震	F014221
F0143_001	片品川左岸断層に発生する地震	F014321
F0144_001	大久保断層に発生する地震	F014421
F0145_001	太田断層に発生する地震	F014521
F0146_001	長野盆地西縁断層帯に発生する地震	F014621, F014622, F01462A
F0147_001	深谷断層・綾瀬川断層に発生する地震	F014721, F014821, F014822, F01482A~F01482C
F0149_001	越生断層に発生する地震	F014921
F0150_001	立川断層帯に発生する地震	F015021
F0151_001	鴨川低地断層帯に発生する地震	F015121
F0152_001	三浦半島断層群主部衣笠・北武断層帯に 発生する地震	F015221
F0152_002	三浦半島断層群主部武山断層帯に発生する地震	F015222
F0152_003	三浦半島断層群南部に発生する地震	F015223
F0153_001	伊勢原断層に発生する地震	F015321
F0154_001	塩沢断層帯に発生する地震	F015421
F0155_001	平山-松田北断層帯に発生する地震	F015521
F0156_001	曾根丘陵断層帯に発生する地震	F015621
F0157_001	身延断層に発生する地震	F015721
F0158_001	北伊豆断層帯に発生する地震	F015821
F0159_001	伊東沖断層に発生する地震	F015921
F0160_001	稲取断層帯に発生する地震	F016021

地震グループ コード	グループ名	断層コード
F0161_001	石廊崎断層に発生する地震	F016121
F0162_001	糸魚川-静岡構造線断層帯に発生する地震	F016221~F016224, F01622A~F01622F
F0170_001	宍道（鹿島）断層に発生する地震	F017001, F017101
F0172_001	雨滝-釜戸断層に発生する地震	F017201
F0173_001	鹿野-吉岡断層に発生する地震	F017301
F0174_001	日南湖断層に発生する地震	F017401
F0175_001	岩坪断層に発生する地震	F017501
F0176_001	山崎断層帯（那岐山断層帯）に発生する地震	F017601
F0176_002	山崎断層帯（主部）に発生する地震	F017701, F017702, F01770A
F0178_001	長者ヶ原-芳井断層に発生する地震	F017801
F0179_001	宇津戸断層に発生する地震	F017901
F0180_001	安田断層に発生する地震	F018001
F0181_001	菊川断層帯に発生する地震	F018101, F018201, F01820A, F018301, F01830A, F01830B
F0184_001	岩国-五日市断層帯に発生する地震	F018401, F018501, F01850A, F018601, F01860A
F0187_001	周防灘断層帯（周防灘断層帯主部区間）に 発生する地震	F018701
F0187_002	周防灘断層帯（秋穂沖断層区間）に発生する地震	F018801
F0189_001	安芸灘断層帯に発生する地震	F018901
F0190_001	広島湾-岩国沖断層帯に発生する地震	F019001
F0191_001	宇部南方沖断層に発生する地震	F019101
F0192_001	弥栄断層に発生する地震	F019201
F0193_001	地福断層に発生する地震	F019301
F0194_001	大原湖断層に発生する地震	F019401
F0195_001	小郡断層に発生する地震	F019501
F0196_001	筒賀断層に発生する地震	F019601
F0197_001	滝部断層に発生する地震	F019701
F0198_001	奈古断層に発生する地震	F019801
F0199_001	栄谷断層に発生する地震	F019901
F0200_001	黒瀬断層に発生する地震	F020001
F0201_001	中央構造線断層帯に発生する地震	F0201*, FH201*, FM201*
F0221_001	長尾断層帯に発生する地震	F022131

地震グループ コード	グループ名	断層コード
F0222_001	上法軍寺断層に発生する地震	F022231
F0223_001	上浦-西月ノ宮断層に発生する地震	F022331
F0224_001	綱附森断層に発生する地震	F022431

確率論的地震動予測地図：予測地図データ記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における予測地図データを記述するシェープファイルの規約を示すものである。予測地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

予測地図データ記述シェープファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-MAP-[確率ケースコード]-[地震コード]-SHAPE.[shp|shx|dbf|prj]

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-MAP-[確率ケースコード]-[地震コード]-SHAPE-[1次メッシュコード].[shp|shx|dbf|prj]

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 確率ケースコード

確率ケースコードの説明を表2-1に示す。

表 2-1 確率ケースコード

確率ケースコード	説明
AVR	平均ケース
MAX	最大ケース

(3) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。

(4) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410(地域メッシュコード)及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002(地域メッシュコード追補 有効1)に準ずる。

3. データ記述規約

予測地図データシェープファイルは、250mメッシュ幾何形状に対し表3-1に示す属性を付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
CODE	String	10-11	250m メッシュコード
T30_I45_PS	Double	17. 15	30 年間で震度 5 弱以上となる確率
T30_I50_PS	Double	17. 15	30 年間で震度 5 強以上となる確率
T30_I55_PS	Double	17. 15	30 年間で震度 6 弱以上となる確率
T30_I60_PS	Double	17. 15	30 年間で震度 6 強以上となる確率
T30_P03_SI	Double	3. 1	30 年間超過確率 3%となる計測震度
T30_P03_BV	Double	7. 3	30 年間超過確率 3%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
T30_P03_SV	Double	7. 3	30 年間超過確率 3%となる地表最大速度 (cm/s)
T30_P06_SI	Double	3. 1	30 年間超過確率 6%となる計測震度
T30_P06_BV	Double	7. 3	30 年間超過確率 6%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
T30_P06_SV	Double	7. 3	30 年間超過確率 6%となる地表最大速度 (cm/s)
T50_P02_SI	Double	3. 1	50 年間超過確率 2%となる計測震度
T50_P02_BV	Double	7. 3	50 年間超過確率 2%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
T50_P02_SV	Double	7. 3	50 年間超過確率 2%となる地表最大速度 (cm/s)
T50_P05_SI	Double	3. 1	50 年間超過確率 5%となる計測震度
T50_P05_BV	Double	7. 3	50 年間超過確率 5%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
T50_P05_SV	Double	7. 3	50 年間超過確率 5%となる地表最大速度 (cm/s)
T50_P10_SI	Double	3. 1	50 年間超過確率 10%となる計測震度
T50_P10_BV	Double	7. 3	50 年間超過確率 10%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
T50_P10_SV	Double	7. 3	50 年間超過確率 10%となる地表最大速度 (cm/s)
T50_P39_SI	Double	3. 1	50 年間超過確率 39%となる計測震度
T50_P39_BV	Double	7. 3	50 年間超過確率 39%となる工学的基盤最大速度 (cm/s)
T50_P39_SV	Double	7. 3	50 年間超過確率 39%となる地表最大速度 (cm/s)

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：矩形）記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図において考慮した断層形状を記述するシェープファイルの規約を示すものである。本ファイル規約は、震源断層を特定でき、複数の矩形により表せる地震の断層形状を扱う。断層形状データ（震源特定：矩形）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（震源特定：矩形）記述シェープファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE1_[地震コード].[shp shx dbf prj]

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
LND_A98F	主要断層帯に発生する固有地震
LND_AGR1	主要断層帯以外の活断層に発生する地震
PSE_AIBRK	茨城県沖の地震（繰り返し発生する地震）
LND_AAOMW	青森県西方沖の地震
LND_AHKDW	北海道西方沖の地震
LND_AHKSW	北海道南西沖の地震
LND_ANIGT	新潟県北部沖の地震
PLE_ASNKT	三陸沖北部のプレート間大地震（繰り返し発生する地震）
LND_AYMGA	山形県沖の地震
PLE_AMYAS	宮城県沖地震（繰り返し発生する地震）
PLE_ASNNK	三陸沖南部海溝寄りの地震（繰り返し発生する地震）

3. データ記述規約

断層形状データ（震源特定：矩形）シェープファイルは、断層面幾何形状（シェープタイプ：PolygonZ）に対し表3-1に示す地震活動評価パラメータを属性として付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
FLT_ID	String	15	断層面 ID※1
LTECODE	String	10	断層コード
LTENAME	String	150	断層名
LON	Double	7.3	経度
LAT	Double	7.3	緯度
DEP	Double	5.1	断層上端深さ (km)
STR	Double	5.1	走向角 (度)
DIP	Double	5.1	傾斜角 (度)
WID	Double	5.1	幅 (km)
LEN	Double	5.1	長さ (km)
MAG	Double	6.1	マグニチュード※2
AVR_AVRACT	Double	10.1	平均活動間隔 (年) – 平均ケース
MAX_AVRACT	Double	10.1	平均活動間隔 (年) – 最大ケース
AVR_NEWACT	Double	10.1	最新活動時期 (年前:評価基準日に対する) – 平均ケース
MAX_NEWACT	Double	10.1	最新活動時期 (年前:評価基準日に対する) – 最大ケース
AVR_T30P	Double	15.10	30 年発生確率 – 平均ケース
MAX_T30P	Double	15.10	30 年発生確率 – 最大ケース
AVR_T50P	Double	15.10	50 年発生確率 – 平均ケース
MAX_T50P	Double	15.10	50 年発生確率 – 最大ケース
PROC	String	5	確率過程 (BPT : BPT 過程、POI : ポアソン過程、COM: BPT 過程とポアソン過程を併用、BSI: BPT 過程 (同時活動モデル)、PSI: ポアソン過程 (同時活動モデル)、SIM: 同時活動モデル、XXX : 評価なし)
ALPHA	Double	7.2	ばらつき※3

注) 地震活動評価パラメータが定義されていない数値型の項目は-999 と記載する。

※1 [断層コード]_[断層面通番(%05d)]の形式で記述する。

※2 マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

※3 BPT 分布により地震発生確率を算定する際のばらつきを表す。

4. 改訂履歴

2016 年 6 月 データブロック PROC の説明を追加。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形）記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図において考慮した断層形状を記述するシェープファイルの規約を示すものである。本ファイル規約は、震源断層を特定でき、複数の矩形断層面で表現できない地震の断層形状を扱う。断層形状データ（震源特定：非矩形）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（震源特定：非矩形）の構成点を記述するシェープファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE2_[地震コード].[shp shx dbf prj]

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 2-1 に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PLE_ATHOP	東北地方太平洋沖型地震
PLE_AMIYA	宮城県沖地震及び三陸沖南部海溝寄りの地震
PLE_ATKNM	十勝沖・根室沖の地震
PLE_ASKTN	色丹島沖の地震
PLE_AETRF	択捉島沖の地震
PLE_ANNKI	南海トラフの地震（～2019年版）
PLE_AKNT0	大正型関東地震
PLE_ASGMI	相模トラフ沿いのM8クラスの地震
PLE_ACHSM	千島海溝沿いの超巨大地震
PLE_ATKCH	十勝沖のプレート間巨大地震
PLE_ANMRO	根室沖のプレート間巨大地震
PLE_AJTHK	日本海溝沿いの超巨大地震（東北地方太平洋沖型）
PLE_AAEIN	青森県東方沖及び岩手県沖北部のプレート間巨大地震
PLE_AMYGI	宮城県沖のプレート間巨大地震

3. データ記述規約

断層形状データ（震源特定：非矩形）シェープファイルは、構成点集合（シェープタイプ:MultiPointZ）に対し表 3-1 に示す地震活動評価パラメータを属性として付加したESRI Shapefileとし、メインファ

イル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
LTECODE	String	10	断層コード
LTENAME	String	150	断層名
DEPTH	Double	5.1	代表深さ (km)
MAG	Double	6.1	マグニチュード※1
AVRACT	Double	10.1	平均活動間隔 (年)
NEWACT	Double	10.1	最新活動時期 (年前:評価基準日に対する)
T30P	Double	15.10	30年発生確率 ※2
T50P	Double	15.10	50年発生確率 ※2
PROC	String	5	確率過程 (BPT:BPT 過程、POI:ポアソン過程、COM:BPT 過程とポアソン過程を併用、XXX:評価なし)
ALPHA	Double	7.2	ばらつき※3

注)地震活動評価パラメータが定義されていない数値型の項目は-999と記載する。

※1 マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

※2 一回以上地震が発生する確率を表す。

※3 BPT 分布により地震発生確率を算定する際のばらつきを表す。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図（2020年版以降）において考慮した断層形状を記述するシェープファイルの規約を示すものである。本ファイル規約は、南海トラフ沿いで発生する大地震の断層形状を扱う。断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（震源特定：非矩形）の構成点を記述するシェープファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE2_[地震コード]_[発生パターンコード].[shp|shx|dbf|prj]

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 2-1 に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PLE_ANNKI	南海トラフ沿いで発生する大地震（2020年版～）

(3) 発生パターンコード

発生パターンコードは発生パターンを一意に定めるコードとなっており、AN001～AN177である。

3. データ記述規約

断層形状データ（震源特定：非矩形、南海トラフ沿いで発生する大地震）シェープファイルは、構成点集合（シェープタイプ：MultiPointZ）に対し表 3-1 に示す属性を付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
FRNO	String	10	震源域番号
DEPTH	Double	5.1	代表深さ (km)
MAG	Double	6.1	マグニチュード※1

※1 マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化矩形）記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における海溝型地震のうち、地震発生領域内で離散化された矩形断層（以下、領域離散化矩形）の形状を記述するシェープファイルの規約を示すものである。断層形状データ（領域離散化矩形）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（領域離散化矩形）の構成点を記述するシェープファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE3_[地震コード].[shp|shx|dbf|prj]

ただし、「南関東で発生する M7 程度の地震」については、以下の表 2-1 に示すファイル名とする。

表 2-1 「南関東で発生する M7 程度の地震」のファイル命名規約

地震種別	ファイル名
フィリピン海プレート上面の地震	P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE3_PSE_BKNT0_INTER_PHL. [shp shx dbf prj]
太平洋プレート上面の地震	P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE3_PSE_BKNT0_INTER_PCF. [shp shx dbf prj]
フィリピン海プレート内の地震	P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE3_PSE_BKNT0_INTRA_PHL. [shp shx dbf prj]

(1) 年コード

YNNNN の形式で記述する。NNNN は、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。X は 2 以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表 2-2 に示す。

表 2-2 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_BTNMI	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート間大地震(津波地震)
PSE_BNRML	三陸沖から房総沖の海溝寄りのプレート内大地震(正断層型)
PSE_BSNKT	三陸沖北部のプレート間大地震(繰り返し発生する地震)
PSE_BSNK	三陸沖南部海溝寄りの地震(繰り返し発生する地震以外の地震)
PSE_BMYAS	宮城県沖地震(繰り返し発生する地震以外の地震)
PSE_BFKSM	福島県沖の地震
PSE_BIBRK	茨城県沖の地震(繰り返し発生する地震以外の地震)

PSE_BTKNM	十勝沖・根室沖のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BSKET	色丹島沖・択捉島沖のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BITRS	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや浅い地震
PSE_BITRD	千島海溝沿いの沈み込んだプレート内のやや深い地震
LND_BHKNW	北海道北西沖の地震
LND_BAKIT	秋田県沖の地震
LND_BSDGN	佐渡島北方沖の地震
PSE_BAKND	安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震
PSE_BHGNL	日向灘のプレート間地震
PSE_BHGNS	日向灘のひとまわり小さいプレート間地震
PSE_BYNGN	与那国島周辺の地震
PSE_BKNT0	相模トラフ沿いの地震:その他の南関東で発生する M7 程度の地震
PSE_BJPTN	日本海溝寄りのプレート間地震 (津波地震等)
PSE_BJOUT	日本海溝の海溝軸外側の地震

3. データ記述規約

断層形状データ (領域離散化矩形) シェープファイルは、断層面幾何形状 (シェープタイプ: PolygonZ) に対し表 3-1 に示す地震活動評価パラメータを属性として付加した ESRI Shapefile とし、メインファイル (*.shp)、インデックスファイル (*.shx)、属性ファイル (*.dbf)、及び投影情報ファイル (*.prj) から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
EQTYPE	Integer	2	地震種類コード (1:地殻内地震、2:プレート間地震、3:プレート内地震)
FLT_ID	String	15	断層面 ID※1
LTECODE	String	10	断層コード
LTENAME	String	150	断層名
LON	Double	7.3	経度
LAT	Double	7.3	緯度
DEP	Double	5.1	断層上端深さ (km)
STR	Double	5.1	走向角 (度)
DIP	Double	5.1	傾斜角 (度)
WID	Double	5.1	幅 (km)
LEN	Double	5.1	長さ (km)
AVRACT	Double	10.1	平均活動間隔 (年)
NEWACT	Double	10.1	最新活動時期 (年前:評価基準日に対する)

T30P	Double	15.10	30年発生確率
T50P	Double	15.10	50年発生確率
PROC	String	5	確率過程 (BPT:BPT過程、POI:ポアソン過程、COM:BPT過程とポアソン過程を併用、XXX:評価なし)
ALPHA	Double	7.2	ばらつき※2
MAGRANGE	String	30	マグニチュード範囲※3
FQRANGE	String	40	発生頻度範囲※3

注)地震活動評価パラメータが定義されていない数値型の項目は-999と記載する。福島県沖の地震は同じ断層面で3回地震が発生するとしてモデル化する。

※1 [断層コード]_[断層面通番(%05d)]の形式で記述する。

※2 BPT分布により地震発生確率を算定する際のばらつきを表す。

※3 $b=0.9$ のグーテンベルク・リヒター式に従うように設定したマグニチュードと、対応する発生頻度をそれぞれカンマ区切りで記載する。マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

確率論的地震動予測地図：断層形状データ（領域離散化非矩形）記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、確率論的地震動予測地図における海溝型地震のうち、地震発生領域内で離散化された非矩形断層（以下、領域離散化非矩形）の形状を記述するシェープファイルの規約を示すものである。断層形状データ（領域離散化非矩形）は2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層形状データ（領域離散化非矩形）の構成点を記述するシェープファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-PRM-SHAPE-TYPE5_[地震コード].[shp shx dbf prj]

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年（西暦）を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

「地震コード規約」を参照のこと。本ファイル規約で扱う地震を表2-1に示す。

表 2-1 本規約が扱う地震

地震コード	地震名
PSE_BCHTN	千島海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）

3. データ記述規約

断層形状データ（領域離散化非矩形）シェープファイルは、断層面幾何形状（シェープタイプ：MultiPointZ）に対し表3-1に示す地震活動評価パラメータを属性として付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
EQTYPE	Integer	2	地震種類コード（1:地殻内地震、2:プレート間地震、3:プレート内地震）
FLT_ID	String	15	断層面 ID※1
LTECODE	String	10	断層コード
LTENAME	String	150	断層名
DEPTH	Double	5.1	代表深さ（km）
AVRACT	Double	10.1	平均活動間隔（年）

NEWACT	Double	10.1	最新活動時期（年前:評価基準日に対する）
T30P	Double	15.10	30年発生確率
T50P	Double	15.10	50年発生確率
PROC	String	5	確率過程（BPT:BPT過程、POI:ポアソン過程、COM:BPT過程とポアソン過程を併用、XXX:評価なし）
ALPHA	Double	7.2	ばらつき※2
MAG	String	30	マグニチュード※3
FREQ	String	40	相対発生頻度

※1 [断層コード]_[断層面通番(%05d)]の形式で記述する。

※2 BPT分布により地震発生確率を算定する際のばらつきを表す。

※3 マグニチュードが負の場合はモーメントマグニチュードを表す。

確率論的地震動予測地図：長期間平均ハザード地図データ記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、長期間平均ハザード地図データを記述するシェープファイルの規約を示すものである。長期間平均ハザード地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

長期間平均ハザード地図データシェープファイルは以下のファイル名とする。

A-[バージョンコード]-MAP-AVR-TTL_M TTL-SHAPE. [shp|shx|dbf|prj]

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

A-[バージョンコード]-MAP-AVR-TTL_M TTL-SHAPE-[1次メッシュコード]. [shp|shx|dbf|prj]

(1) バージョンコード

バージョンコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 バージョンコード

バージョンコード	概要
V1	2012年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V2	2013年版モデル2の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V3	2013年版モデル1の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V4	2014年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V5	2016年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V6	2017年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V7	2018年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価
V8	2020年版の確率論的地震動予測地図で使用した地震活動モデルを基準にポアソン過程で評価

(2) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410（地域メッシュコード）及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002（地域メッシュコード追補 有効1）に準ずる。

3. データ記述規約

長期間平均ハザード地図データシェープファイルは、250m メッシュ幾何形状に対し表 3-1 に示す属性を付加した ESRI Shapefile とし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	250m メッシュコード
A0500_SI	String	2	再現期間 500 年相当の震度 ※
A1000_SI	String	2	再現期間 1000 年相当の震度 ※
A5000_SI	String	2	再現期間 5000 年相当の震度
A010K_SI	String	2	再現期間 1 万年相当の震度
A050K_SI	String	2	再現期間 5 万年相当の震度
A100K_SI	String	2	再現期間 10 万年相当の震度

※5L, 5U, 6L, 6U はそれぞれ震度 5 弱、5 強、6 弱、6 強を表す。

条件付超過確率地図データ記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、条件付超過確率地図データを記述するシェープファイルの規約を示すものである。条件付超過確率地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

条件付超過確率地図データ記述シェープファイルは以下のファイル名とする。

C-[バージョンコード]-[断層コード]-MAP-SHAPE-CASE1. [shp|shx|dbf|prj]

ただし、「南海トラフ沿いで発生する大地震」（2020年版以降）のファイルは以下のファイル名とする。

C-[バージョンコード]-ANNKI-[発生パターンコード]-MAP-SHAPE-CASE1. [shp|shx|dbf|prj]

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(2) 断層コード

断層コード規約を参照のこと。

(3) 発生パターンコード

発生パターンコードは発生パターンを一意に定めるコードとなっており、AN001～AN177である。

3. データ記述規約

条件付超過確率地図データシェープファイルは、250mメッシュ幾何形状に対し表3-1に示す属性を付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	250mメッシュコード
AVE_SI	Double	9.5	地表の計測震度（平均値）
I45_PS	Double	9.5	震度5弱以上となる確率
I50_PS	Double	9.5	震度5強以上となる確率
I55_PS	Double	9.5	震度6弱以上となる確率
I60_PS	Double	9.5	震度6強以上となる確率

想定地震地図データ記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、想定地震地図データを記述するシェープファイルの規約を示すものである。想定地震地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

想定地震地図データ記述シェープファイルは以下のファイル名とする。

S-[バージョンコード]-[断層コード]-MAP-SHAPE-[ケースコード].[shp shx dbf prj]

(1) バージョンコード

V[N]の形式で記述する。整数値Nは断層パラメータ・計算条件が変更されたときに1ずつ増加する。

(2) 断層コード

「断層コード規約」を参照のこと。

(3) ケースコード

CASE[N]の形式で記述する。Nは1から始まる整数とする。

3. データ記述規約

想定地震地図データシェープファイルは、250mメッシュ幾何形状に対し表3-1に示す属性を付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
CODE	String	10-11	250mメッシュコード
BV	Double	9.5	詳細法工学的基盤における最大速度(cm/s)
BI	Double	9.5	詳細法工学的基盤における計測震度
EB	Double	9.5	詳細法工学的基盤のS波速度(m/s)
AMP	Double	9.5	震度増分
SI	Double	9.5	地表における計測震度

表層地盤データ記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、表層地盤データを記述するシェープファイルの規約を示すものである。表層地盤データシェープファイルは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

表層地盤データ記述シェープファイルは以下のファイル名とする。

Z-[バージョンコード]-JAPAN-AMP-VS400_M250-SHAPE. [shp|shx|dbf|prj]

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

Z-[バージョンコード]-JAPAN-AMP-VS400_M250-SHAPE-[1次メッシュコード]. [shp|shx|dbf|prj]

(1) バージョンコード

バージョンコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 バージョンコード

バージョンコード	概要
V3	2014年の「全国地震動予測地図」で使用した、250mメッシュ単位データ
V4	2020年の「全国地震動予測地図」で使用した、250mメッシュ単位データ

(2) 1次メッシュコード

1次メッシュコードはJIS X 0410（地域メッシュコード）及びJIS X 0410/AMENDMENT1:2002（地域メッシュコード追補 有効1）に準ずる。

3. データ記述規約

表層地盤データシェープファイルは、250mメッシュ幾何形状に対し表 3-1 に示す属性を付加したESRI Shapefileとし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

表 3-1 属性一覧

属性名	型	書式	説明
CODE	String	10	250mメッシュコード（世界測地系）
JCODE	Integer	2	微地形分類コード ^{※1}
AVS	Double	5.1	表層30mの平均S波速度(m/s) ^{※1}
ARV	Double	9.4	工学的基盤（Vs=400m/s）から地表に至る最大速度の増幅率 ^{※1}

AVS_EB ^{※2}	String	6	詳細法工学的基盤面から深さ 30m の平均 S 波速度 (m/s)。 値が定義されていないメッシュは '-' と記載する。 ^{※1}
AVS_REF ^{※2}	Integer	2	表層 30m の平均 S 波速度の出典分類番号 ^{※1}

※1: 詳細は「表層地盤データ記述ファイル規約」(4) を参照のこと。

※2: バージョンコード V3 ではこの列は記載しない。

4. 改訂履歴

- 2014 年 3 月 旧データのバージョンコード V1 に関する記述を削除
- 2014 年 12 月 旧データのバージョンコード V2 に関する記述を削除
- 2018 年 6 月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。
- 2021 年 3 月 ファイル命名規約にバージョンコードの記述を追加。

深部地盤構造モデルデータ記述シェープファイル規約

1. 概要

本書は、深部地盤構造モデルデータを記述するシェープファイルの規約を示すものである。深部地盤構造モデルデータシェープファイルは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

深部地盤構造モデルデータシェープファイルは以下のファイル名とする。

D-[バージョンコード]-STRUCT_DEEP-[ファイル種別コード]-SHAPE. [shp|shx|dbf|prj]

1次メッシュ単位のファイルは以下のファイル名とする。

D-[バージョンコード]-STRUCT_DEEP-[ファイル種別コード]-SHAPE-[1次メッシュコード]. [shp|shx|dbf|prj]

(1) バージョンコード

バージョンコードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 バージョンコード

バージョンコード	概要	出典
V1	2010 年版以前の震源断層を特定した地震動予測地図の計算に使用したデータ	藤原・他 (2009)
V2	2011 年版以後の震源断層を特定した地震動予測地図の計算に使用したデータ	藤原・他 (2012)
V3.2	2020 年版以降の震源断層を特定した地震動予測地図の計算に使用したデータ	地震調査研究推進本部 (2021)
V4	先名・他 (2023) の第 5 章で作成されたデータ	先名・他 (2023)

(2) ファイル種別コード

ファイル種別コードの説明を表 2-2 に示す。

表 2-2 ファイル種別コード

ファイル種別コード	説明
LYRD	深さ
LYRE	標高

(3) 1次メッシュコード

1次メッシュコードは JIS X 0410 (地域メッシュコード) 及び JIS X 0410/AMENDMENT1:2002 (地域メッシュコード追補 有効1) に準ずる。

3. データ記述規約

深部地盤構造モデルデータシェープファイルは、1km メッシュ幾何形状に対しファイル種別コード別に(1)～(2)に示す属性を付加した ESRI Shapefile とし、メインファイル(*.shp)、インデックスファイル(*.shx)、属性ファイル(*.dbf)、及び投影情報ファイル(*.prj)から構成される。

(1) 深さ

3 次メッシュコードに対応する深さのデータを記述する。ブロック内記述方法をバージョンコード別に表 3-1、表 3-2、表 3-3 に示す。

a) V1 および V2

表 3-1 属性一覧(深さ)

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	3 次メッシュコード (日本測地系)
D0	Integer	5	0 固定
D1	Integer	5	第 1 層下面深さ (m)
:	:	:	:
D28	Integer	5	第 28 層下面深さ (m)
D29	Integer	5	地震基盤面深さ (m) Vs=2700 (m/s)
D30	Integer	5	地震基盤面深さ (m) Vs=3100 (m/s)
D31	Integer	5	地震基盤面深さ (m) Vs=3200 (m/s)
D32	Integer	5	地震基盤面深さ (m) Vs=3300 (m/s)

b) V3.2

表 3-2 属性一覧(深さ)

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	3 次メッシュコード (世界測地系)
S0	Double	7.1	0 固定
D0	Double	7.1	第 0 層下面深さ (m)
D1	Double	7.1	第 1 層下面深さ (m)
:	:	:	:
D28	Double	7.1	第 28 層下面深さ (m)
D29	Double	7.1	第 29 層下面 (地震基盤面) 深さ (m)
D30	Double	7.1	第 30 層下面深さ (m)

c) V4

表 3-3 属性一覧(深さ)

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	3 次メッシュコード (世界測地系)
S0	Double	7.1	0 固定
D0	Double	7.1	第 0 層下面深さ (m)
D1	Double	7.1	第 1 層下面深さ (m)
:	:	:	:
D28	Double	7.1	第 28 層下面深さ (m)
D29	Double	7.1	第 29 層下面 (地震基盤面) 深さ (m)
D30	Double	7.1	第 30 層下面深さ (m)
D31	Double	7.1	第 31 層下面深さ (m)

(2) 標高

3 次メッシュコードに対応する標高のデータを記述する。ブロック内記述方法をバージョンコード別に表 3-4、表 3-5、表 3-6 に示す。

a) V1 および V2

表 3-4 属性一覧(標高)

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	3 次メッシュコード (日本測地系)
E0	Integer	6	地表標高 (m)
E1	Integer	6	第 1 層下面標高 (m)
:	:	:	:
E28	Integer	6	第 28 層下面標高 (m)
E29	Integer	6	地震基盤面標高 (m) $V_s=2700$ (m/s)
E30	Integer	6	地震基盤面標高 (m) $V_s=3100$ (m/s)
E31	Integer	6	地震基盤面標高 (m) $V_s=3200$ (m/s)
E32	Integer	6	地震基盤面標高 (m) $V_s=3300$ (m/s)

b) V3.2

表 3-5 属性一覧(標高)

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	3 次メッシュコード (世界測地系)
S0	Double	8.1	地表標高 (m)
E0	Double	8.1	第 0 層下面標高 (m)
E1	Double	8.1	第 1 層下面標高 (m)

:	:	:	:
E28	Double	8.1	第 28 層下面標高 (m)
E29	Double	8.1	第 29 層下面 (地震基盤面) 標高 (m)
E30	Double	8.1	第 30 層下面標高 (m)

c) V4

表 3-6 属性一覧(標高)

属性名	型	書式	説明
CODE	String	11	3 次メッシュコード (世界測地系)
S0	Double	8.1	地表標高 (m)
E0	Double	8.1	第 0 層下面標高 (m)
E1	Double	8.1	第 1 層下面標高 (m)
:	:	:	:
E28	Double	8.1	第 28 層下面標高 (m)
E29	Double	8.1	第 29 層下面 (地震基盤面) 標高 (m)
E30	Double	8.1	第 30 層下面標高 (m)
E31	Double	8.1	第 31 層下面標高 (m)

4. 参考文献

- (1) 藤原広行・河合伸一・青井真・森川信之・先名重樹・工藤暢章・大井昌弘・はお憲生・早川讓・遠山信彦・松山尚典・岩本鋼司・鈴木晴彦・劉瑛 (2009) : 強震動評価のための全国深部地盤構造モデル作成手法の検討, 防災科学技術研究所研究資料 第 337 号
- (2) 藤原広行・河合伸一・青井真・森川信之・先名重樹・東宏樹・大井昌弘・はお憲生・長谷川信介・前田宜浩・岩城麻子・若松加寿江・井元政二郎・奥村俊彦・松山尚典・成田章 (2012) : 東日本大震災を踏まえた地震ハザード評価の改良に向けた検討, 防災科学技術研究所研究資料 第 379 号
- (3) 地震調査研究推進本部 (2021) : 「関東地方の浅部・深部統合地盤構造モデル (2021 年版)」, <https://www.jishin.go.jp/evaluation/strong_motion/underground_model/integration_model_kanto_2021/> (2021 年 3 月 26 日公表)
- (4) 先名重樹・藤原広行・前田宜浩・森川信之・岩城麻子・河合伸一・谷田貝淳・佐藤将・鈴木晴彦・稲垣賢亮・松山尚典 (2023) : 強震動評価のための浅部・深部統合地盤構造モデルの構築, 防災科学技術研究所研究資料 第 498 号